2023-2024

Yokohama National University
Organization for Local Collaboration Networking
Global-Local Education and Research Center

横浜国立大学
地域連携推進機構
地域実践教育研究センター

Annual Report 2023-2024

Think Globally,
Act Locally.

地域実践教育研究センター
Global-Local Education and Research Center

地域実践教育研究センター

Global-Local Education and Research Center

地域実践教育研究センターは横浜国立大学内の各部局を横断的につなぎ、「地域」に関わる「教育・研究」を実施・推進することにより、地域活性化と地域創造を促進させていきます。

●設立経緯・これまでの歩み

地域実践教育研究センターは 2004 年に文部科学省による「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」事業に採択されたこと契機に、2004 年の後期（秋学期）から「地域課題プロジェクト」を開始し、2005 年から「地域交流科目」の設立に向けてコア科目などの各授業を開設しました。その後、2006 年から「地域交流科目」の設立および本格運用をし、2007 年に「地域実践教育研究センター」が開設されました。また、2012 年からは大学院副専攻プログラムとして「地域創造科目」を設置しました。

2017 年には「地域連携推進機構」が設立され、2019 年度から地域実践教育研究センターは地域連携推進機構の機構内センターとして位置付けられました。

現在、学部副専攻プログラム「地域交流科目」の地域課題実習においては毎年数百名ほどの学生が履修・参画しており、横浜・神奈川地域をはじめ国内外の各地域において地域活性化、地域支援活動を実施・展開しています。

CONTENTS ・・・・・・・・・・・・・・・・01

地域交流科目［学部 副専攻プログラム］・・・・02-19
Under graduate Sub-major program "Local-exchange Subjects"

地域課題実習

01. アグリッジプロジェクト
02.BOSAI ラボ
03. モビリティ・デザインの実践
04. コットンおとなりさん PJ
05. キャンパスの魅力を耕すプロジェクト
06. 川根本町プロジェクト
07. はまみらいプロジェクト
08. 島プロジェクト
09. 岩手らばーず
10.New-New Town プロジェクト
11. 転倒しない街共創ラボ「こらぼ」
12. おおたクリエイティブタウンセンター
13. データで捉える地域課題・地域経済
14. サコラボ
15. 里山コミュニティデザイン
16. ローカルなマテリアルのデザインプロジェクト
17. まちに開いた交流の場のデザイン
18. みなとまちプロジェクト
19. ワダヨコ
20. ハマの屋台プロジェクト
21. 南米農村部での学びを生かした横浜「共生」PJ
22.YUC (Yokohama Univer-City)
23. 再エネ経済循環プロジェクト
24. 横国 VR キャンパスプロジェクト
25. キャンパス UD プロジェクト
Topics

地域創造科目［大学院 副専攻プログラム］・・・・ 20-21
Graduated school Sub-major program
" Creative education program about local problems"

研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22-23
Research

-1. 学際的研究
-2. 地域研究

地域連携推進機構 ・・・・・・・・・・・・・24
Organization for Local Collaboration Networking

・地域連携推進機構について
・地方自治体との連携協定
・Next Urban Lab

関連教員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・25-27
The Relationship Professors

地域交流科目 ［学部 副専攻プログラム］

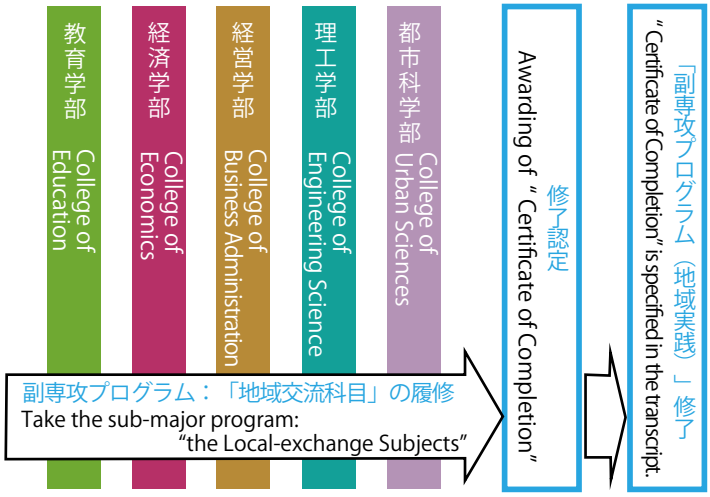
Under graduate Sub-major program
Local-exchange Subjects

■地域交流科目について

地域交流科目は「グローバルな視野をもって地域課題を解決する、先端的かつ複合的な実践能力を身につけるプログラム」として、横浜国立大学の全学部生が履修可能な副専攻プログラムです。
このプログラムは、①コア科目、②講義科目、③実践科目の3つの科目で構成されています。 所定要件の10単位以上を習得すると、副専攻プログラムの修了認定を受けることができます。

■About the "Local-exchange Subjects"

The Undergraduate sub-major program "Local-exchange Subjects" connects independent subjects from all departments to train students as young talent who can solve local challenges with a global perspective. This program consists of ①Core-Lecture subjects , ②Special Lecture subjects, ③Practical subjects. Students can receive completion authorization when they acquire the prescribed credits of the sub-major program.

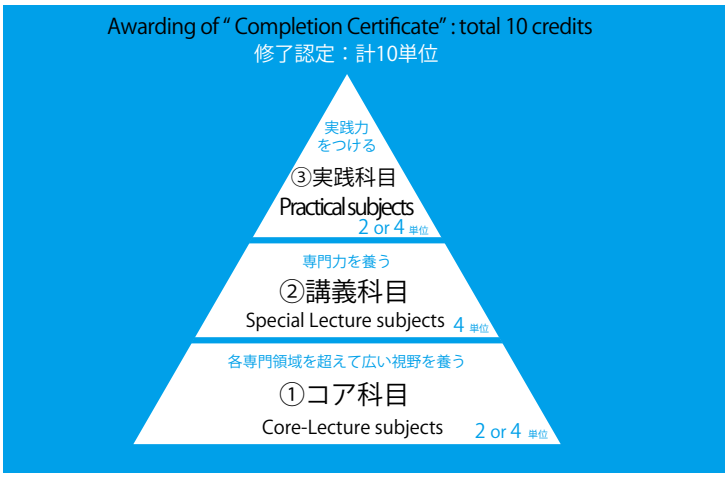


コア科目：「地域連携と都市再生A（ヨコハマ地域学）」

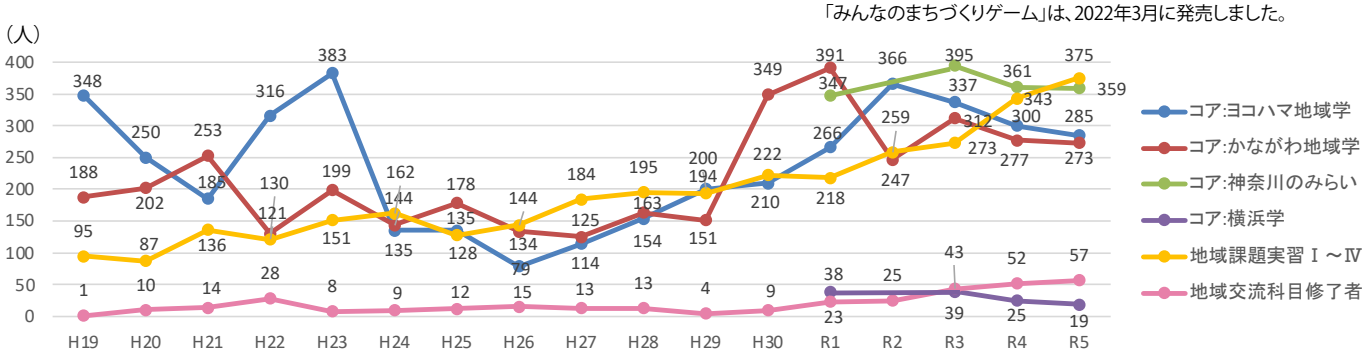
回	講義テーマ	講師
1	概論(1)オリエンテーション・横浜の成り立ち	志村真紀・内海宏
2	概論（2）横浜という都市を通して日本の近代化を語る	野原卓
3	概論（3）世界の中の横浜、日本の中の横浜	高見沢実
4	フィールド（1）都心地域の現状と課題	野原卓
5	フィールド（2）郊外地域の現状と課題	内海宏
6	フィールド（3）中間地域の現状と課題	志村真紀
7	今日の横浜の都市課題(1) ～人口減少社会に向けて～	稲垣景子
8	参加型授業（1）現地調査	-
9	参加型授業（2）中間報告会	志村・内海・秋元
10	今日の横浜の都市課題(2) 国内外の港町における地域課題と再生モデル	山崎満広
11	地域再生モデル（2)都市農地再生と地域まちづくり	内海宏
12	地域再生モデル（1）クリエイティブシティと都市政策	秋元康幸
13	地域再生モデル（4）子どもとまちづくり	三輪律江
14	地域再生モデル（3)商店街と地域まちづくり	志村真紀
15	参加型授業（3）各地域の課題と解決方法について発表・討論する	志村・内海・秋元

コア科目：「地域連携と都市再生A（かながわ地域学）」

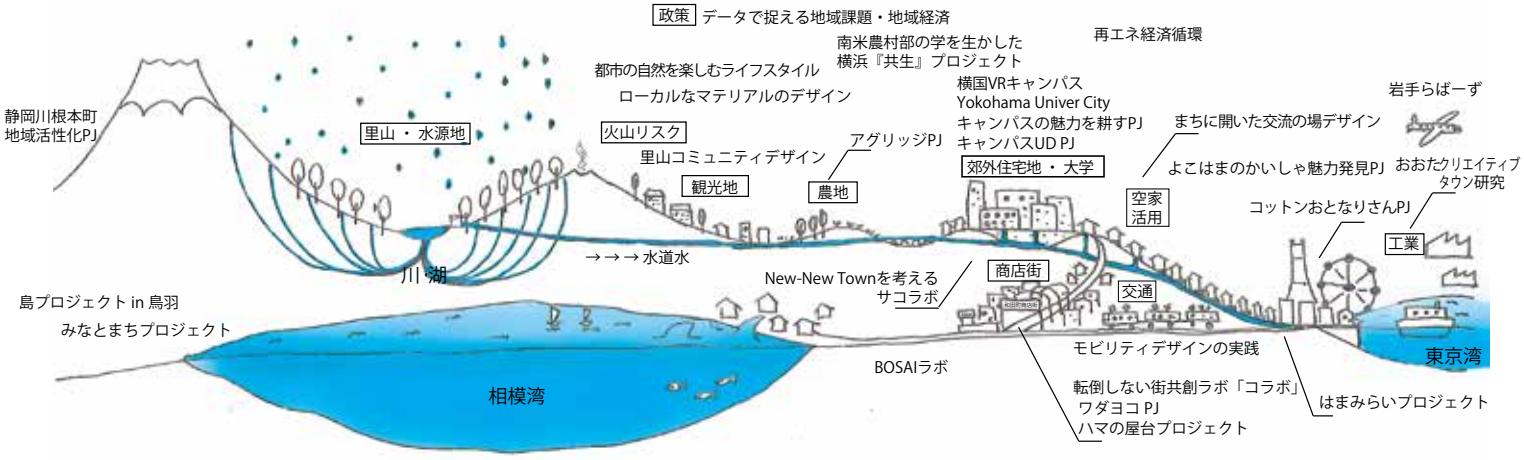
回	講義テーマ	講師
1	オリエンテーション	志村真紀
2	エネルギー	大森明
3	地域をめぐるお金の流れ：地域経済	池島祥文
4	地方行財政	伊集守直
5	（福祉と）地域経済	伊集守直
7	箱根町の観光まちづくりへの取り組み	箱根町行政・池島・伊集
6	県西・小田原市：SDGsの時代における地域経営 ～持続可能な地域社会モデルへ～	加藤憲一
8	政令指定都市：横浜市：SDGsへの取り組み	信時正人
9	南足柄市の特徴と今後の政策について	南足柄市行政
10	みんなのまちづくりゲームのプレー方法	池島・志村・伊集・浅野
11	第1回 参加型授業 （みんなのまちづくりゲーム）	池島・志村
12	第2回 参加型授業 （みんなのまちづくりゲーム）	志村・伊集
13	第3回 参加型授業 （みんなのまちづくりゲーム）	伊集・志村
14	第4回 参加型授業 （みんなのまちづくりゲーム）	志村・池島
15	第5回 参加型授業 最終レポート発表会・討論会	池島・伊集・志村



地域連携と都市再生B（かながわ地域学）の 参加型授業の教材として開発した「みんなのまちづくりゲーム」は、2022年3月に発売しました。

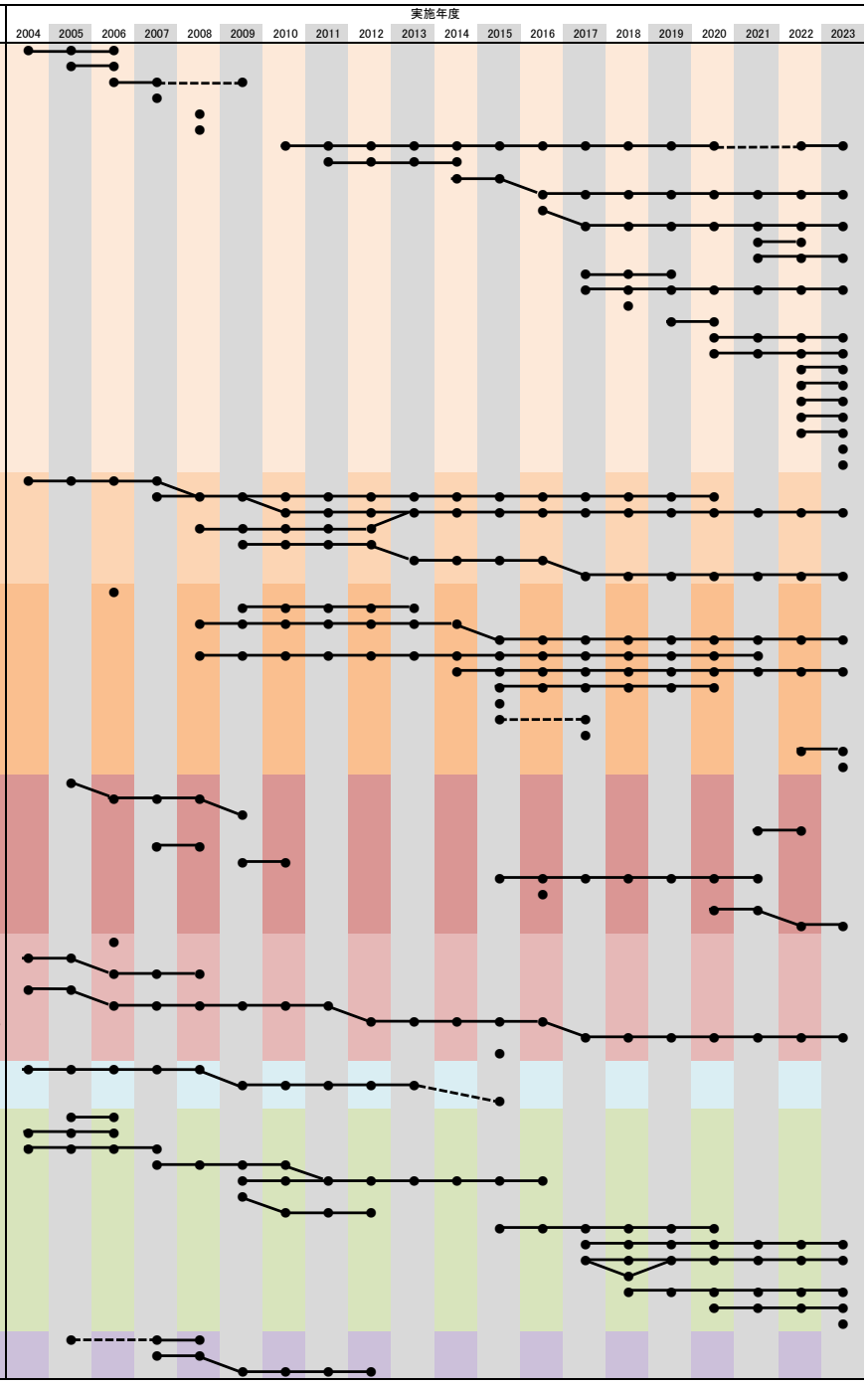


コア科目と地域課題実習の履修者数 The study number of people



2004年からの地域課題実習の各プロジェクトの実施（継続）年度

No.	類型	プロジェクト名	地域	担当教員
1		デザインスタジオ	保土ヶ谷区	大原、藤岡、野沢、山口、田井
2		まちづくり拠点として地域に開かれた学校づくりへの参画	横浜市	額田
3		神奈川区魅力さかせ隊	神奈川区	大原、藤岡
4		地域参画による学校環境のリ・デザイン	保土ヶ谷区	藤岡、三輪
5		保土ヶ谷ハッピースクエアプロジェクト	保土ヶ谷区	藤岡、三輪
6		常盤台地域ケアプラザを契機とした老後も住み続けられるまちづくり	保土ヶ谷区	大原、安藤、藤岡
7		モビリティデザインの実践	横浜市、他	池島
8		左近山の未来をつくるプロジェクト	保土ヶ谷区	藤岡・門倉
9		水辺と共生するまちづくりデザイン	逗子市	志村
10		みなとまちプロジェクト	静岡市	志村
11	まちづくり	郊外サイコウ	横浜市	野原
12	まちづくり	New-New Townを考える	横浜市	野原
13	まちづくり	SSUI-yokohama プロジェクト	横浜市	尹
14	まちづくり	サコラボ	横浜市	藤岡
15	まちづくり	シェアハウスのデザイン	横浜市	江口
16	まちづくり	まちに開いた交流の場デザイン	横浜市	江口
17	まちづくり	上星川プロジェクト	保土ヶ谷区	松行
18	まちづくり	YNU×TOYOTA/NISSANプロジェクト	横浜市	氏川
19	まちづくり	コットンおとなりさんプロジェクト	横浜市	伊集
20	まちづくり	Yokohama Univer City	保土ヶ谷区	三浦
21	まちづくり	キャンパスの魅力を耕すプロジェクト	保土ヶ谷区	藤原
22	まちづくり	キャンパスUDプロジェクト	保土ヶ谷区	藤岡、大原
23	まちづくり	転倒しない街共創ラボ	神奈川県	島、小林(知)、他
24	まちづくり	岩手らばーず	岩手県	田中(稲)
25	まちづくり	島プロジェクト in 鳥羽	鳥羽市	小林
26	まちづくり	BOSAIラボ	横浜市、神奈川県	小松、稲垣、細田
27	まちづくり	横国VRキャンパス	保土ヶ谷区	為近
28	商店街	和田町いきいきプロジェクト	保土ヶ谷区	高見沢、佐土原
29	商店街	和田べんプロジェクト	保土ヶ谷区	高見沢
30	商店街	ワダヨコプロジェクト	保土ヶ谷区	野原・尹
31	商店街	公共空間の活用とにぎわいづくり	保土ヶ谷区	秋元、藤岡
32	商店街	松原商店街バザール創造プロジェクト	保土ヶ谷区	田村、飯田、松行、志村
33	商店街	ほどがや「みちまち」プロジェクト	保土ヶ谷区	野原、藤原、(藤岡、志村)
34	商店街	ハマの屋台プロジェクト	保土ヶ谷区	野原
35	地域産業	コミュニティビジネスとワークプレイス	保土ヶ谷区	秋元
36	地域産業	地域経済振興のための新ビジネスを考える	横浜市	松井
37	地域産業	ガラスシティ・プロジェクト	川崎市	志村
38	地域産業	ローカルなマテリアルのデザイン	横浜市	志村
39	地域産業	市民活動を体験して考える協働型まちづくりPJ	横浜市	三輪、高見沢
40	地域産業	おおたクリエイティブタウン研究	大田区	野原
41	地域産業	かながわニューツーリズム	足柄地域	氏川
42	地域産業	アーツコミッション・ヨコハマ・インターンシップ	横浜市	藤原
43	地域産業	地域起業型インターンシッププログラム	保土ヶ谷区	江口
44	地域産業	販売現場から学ぶ店舗経営	横浜市	ダニエル・ヘラー
45	地域産業	よこはまのかいしゃ魅力発見プロジェクト	横浜市	為近
46	地域産業	静岡川根本町 地域経済活性化プロジェクト	静岡県榛原郡	山崎(満)
47	国際交流	アジア 横浜交流プロジェクト	横浜市/アジア	山崎
48	国際交流	横浜ラテン・プロジェクト(YLP)	神奈川県/ブラジル	山崎
49	国際交流	2008年「リーマン・ショック」と県下ブラジル人	神奈川県/ブラジル	山崎
50	国際交流	鶴見区のブラジル人住民との多文化共生	神奈川県/ブラジル	山崎
51	国際交流	留学生の地域交流と居場所づくり	保土ヶ谷区	門倉、秋元、長谷川
52	国際交流	中国研修を通じた国際化対応人材育成プロジェクト	横浜市/中国	村田、于、白水、長谷部(英)
53	国際交流	現代世界の課題の探索と協力の実践：ネパールPJ	被災地/海外	小林
54	国際交流	移民・難民コミュニティと日本社会	神奈川県/海外	佐藤、小林
55	国際交流	南米につながる子どもたちとの横浜『共生』PJ	横浜市/南米	藤掛、他
56	国際交流	南米農村部での学びを生かした横浜「共生」PJ	横浜市/南米	藤掛、他
57	政策	人と町・町と世界モダンコミュニティ開発PJ	横浜市	小々谷
58	政策	地域から現代経済にアプローチする	横浜市/神奈川県	中村(剛)
59	政策	地域経済政策	神奈川県	中村(剛)
60	政策	地域政策の数量的政策評価	横浜市	長谷部
61	政策	数字で捉える地域経済	横浜市	長谷部、岡部、相馬
62	政策	横浜市と市民生活白書を作ろう！	横浜市	居城、池島、岡部、相馬、長谷部
63	政策	データで捉える地域課題・地域経済	横浜市・神奈川県	居城、池島、氏川、他
64	政策	電子マップで発見し協働する「ほどがや」	保土ヶ谷区	佐土原、吉田、稲垣
65	財政	水を未来につなぐシステムづくり	神奈川県	金澤、高井
66	財政	地域から水と大気を考えるエコプロジェクト	神奈川県	金澤、高井
67	財政	まちづくりと地方自治	神奈川県	伊集
68	環境	環境教育プロジェクト	保土ヶ谷区	井上
69	環境	帷子川流域の自然活用化プロジェクト	横浜市	中村(栄)、原田
70	環境	緑いきいき地域交流プロジェクト	横浜市	藤原、大野
71	環境	エコの芽を育てるプロジェクト@横浜	横浜市	田中、田村
72	環境	横国エコキャンパスプロジェクト	保土ヶ谷区	中村(栄)、松本(真)
73	環境	食を中心としたまちづくりプロジェクト	横浜市	井上
74	環境	横浜地産地消推進プロジェクト	横浜市	井上
75	環境	かながわ里山探検隊	神奈川県	小池(治)
76	環境	都市の自然を楽しむライフスタイル	横浜市・神奈川県	小池(文)
77	環境	アグリッジプロジェクト	横浜市・神奈川県	小林、池島
78	環境	アグリッジ商品開発プロジェクト	横浜市・神奈川県	池島
79	環境	はまみらいプロジェクト	横浜市	吉田、野原、稲垣
80	環境	再エネ経済循環	長野県	山崎(満)
81	環境	里山コミュニティデザイン	神奈川県	佐藤、倉田(薫)
82	教育	保土ヶ谷まちづくり学習サポート・プロジェクト	保土ヶ谷区	木村
83	教育	聾学校との交流プロジェクト	保土ヶ谷区	中川(辰)
84	教育	障害児の余暇活動の支援ボランティア	保土ヶ谷区	中川(辰)



01

アグリッジプロジェクト
Agridge project

「農」と「食」の力で地域活性化を目指す
Aiming to revitalize local communities through the power of "agriculture" and "food"

■学生：17名（清水翼, 松木杏志郎, 伊東秀真, 飯田朱音, 石井夏帆, 上床穂乃香, 藏重光希, 田中麻奈美, 村山美咲, 石川智清, 今井悠翔, 北浦竜之介, 工藤優太, 中舘美卯, Casey Frey, Yim Seryeong, Brandon Houston）
■担当教員：池島祥文, 小林誉明
■連携・協力：藤巻芳明, 常盤台コミュニティハウス, 常盤台地区連合町内会, 株式会社横浜ビール, 和田町商店街, 矢郷農園, 炭火焼肉大将軍, 社会福祉法人開く会, バニヤンツリーベーカリー, FM上星川, 特定非営利活動法人 居場所そら, ひまわり亭, アジアンキッチンわだ, 異食堂すみれ
■活動地域：学外農地, 横浜市(保土ヶ谷区他), 小田原市上曽我地域
■サイト：https://agridge-chiiki-kasseika.localinfo.jp/

アグリッジプロジェクトは農業による地域活性化を理念に掲げ、商品開発・Agrink・Agreeting・和田べんの4部門で活動しています。

商品開発部門では社会福祉法人開く会と協力し、摘果される青みかんを使った焼き菓子を開発･販売しました。野菜を生産するAgrink部門では農業日報アプリを導入し、全員で野菜の管理を行いました。

4部門のなかでも今年度は、「人と人、人と知識をつなぐ」が理念のAgreeting部門に注力しました。活動内容は食・農に関連したイベントの企画･実施です。

イベントでは種から育てたポップコーンの販売と、野菜はんこのワークショップを行いました。はんこの材料は梱包時に捨てられる葉っぱや茎などです。思い思いのうちわや絵ハガキ作りによって、子どもたちが野菜に親しむ機会を提供しました。

自主企画では、自分たちの野菜の味を知るため、焼きいも会と野菜餅づくりを企画しました。焼きいもを調理する際に使用した燃料の古竹とピザ窯は、学内の2つの団体から提供していただきました。共に調理したものを食べることは、日頃の畑作業よりも深い交流につながったと考えています。

秋学期には交換留学生を受け入れ、地域の方との畑作業や先述のイベントなどの活動を行いました。食や農は国籍・年齢に関係なく楽しむことができ、地域活性化の手段として相応しいことを再確認しました。

今年度の活動では、コロナ禍で希薄化した地域との交流を取り戻しただけでなく、学内で新たなつながりを築くことができました。来年度は我々の野菜を使うのに加え、食・農に関する企画から理念の「人と人をつなぐ」きっかけを生み出していきます。

02

BOSAIラボ
BOSAI Lab. (Disaster Mitigation Lab.)

防災・減災のために、大学生としてできることを
Do our best for “BOSAI” (disaster mitigation)

■学生：27名（明日海斗, 松尾祐輝, 大塚晴紀, 粕谷昌貴, 藤田光, 堀 雅也, 鄭宇軒, 小岩井優子, 鳥谷佳菜, 秀島美咲, 加藤瑞樹, 柴山遼太郎, 武次稀凜, 得田実愛, 河村優結, 平野晴哉, 柳澤美那, 湯本莉衣, 石川巧, 乾大和, 柴﨑創芽, 島田愛果, 鈴木皓斗, 瀧本早蘭, 平岡茉瑠乃, 福井智遥, 脇田知怜）
■担当教員：小松怜史, 細田暁, 稲垣景子
■連携・協力：豊穣な社会のための防災研究拠点, 福山市立鞆の浦学園
■活動地域：常盤台キャンパス周辺, 福山市鞆の浦
■サイト：https://bosai-lab.ynu.jp/

BOSAIラボは「防災」をフィールドに、大学生としてできる防災・減災に資する活動を考え、実践していくプロジェクトです。今年度は4つの実践チームと2つの研究班に分かれて活動しています。

横国生チームは留学生の防災意識向上に向けて活動しています。春学期には大学の留学生係の方に協力していただいて留学生の防災意識のアンケート調査を行いました。来年度に向けてはまみらいPJの防災チームと協力して留学生向けの防災イベントを企画しています。

避難所チームは避難所を対象に理想的な空間づくりや制度について考えています。災害発災時には一時避難場所となる横国のキャンパスでできる工夫を考え、実際にやってみることで、有事でも快適に過ごす方法を模索しています。

防災行動チームは市民の防災行動に関する知識を深めるために活動しています。横国生に向けて「通学中に被災した時の行動」についてのアンケート調査を行いました。今後はその状況を想定してとるべき防災行動をロールプレイし、フィードバックしていきます。

まち歩きチームはバリアフリーの避難誘導に焦点を当て、常盤台キャンパスの周辺で、避難経路の策定や危険な場所の確認をするフィールドワークを行っています。実際に車いすを使われている大学院生の方とのコラボフィールドワークも行いました。

旧地名班は消滅した地名と災害との関係を調べています。地名の研究を通じて地域の災害リスクを整理し、防災意識向上に貢献します。

防災教育班は福山市立鞆の浦学園を訪問し、細田先生の防災授業のお手伝いを行いました。今後も鞆の浦学園の連携を続けていきます。

来年度は、10月のぼうさいこくたい出展を目指し、引き続き防災のためにできることを模索・実践してきたいと思います。

※地域課題実習は「横浜国立大学 校友会」により「活動支援費」を頂きながら、
各プロジェクトの活動が行われています。

03

モビリティ・デザインの実践
Mobility design in practice

都市をより魅力的にし、日常生活を彩る。
Making cities more attractive and enriching everyday life.

■学生：23名（白岩元彦, 宮内爽太, 久保春奈, 伊藤広登, 浴多佑, 渡邊瑛大, 伊藤琢人, 延原翠, 中原船登, 今井薫, 中田結貴, 大久保聡志, 渡部耀, 仙波亮太, 村山拓己, 土田倫晟, 齊藤優, 山口優生咲, 髙木希海, 山口慧, 峰龍太郎, 辻慎太郎）
■担当教員：池島祥文
■連携・協力：LocaliST㈱, 京急電鉄㈱, ㈱ アットヨコハマ, 横浜市地域まちづくり課, 藤沢市都市整備課
■活動地域：神奈川県横浜市(関内地区, 横浜国立大学, 京急富岡地区), 藤沢市
■サイト：https://mobilitydesign.localinfo.jp/

モビリティ・デザインの実践プロジェクトでは、まちの移動のしやすさや暮らしやすさに注目し、地域の皆様と共に、まちの魅力を高めるための実現方策を描くことを目標に活動しています。神奈川県内各地域で、カウンターパートナーの皆様と実社会の課題に取り組んでいます。

2023年度は、23名の学生が4つの班に分かれて活動をしました。

みらいの地図班では、横浜国立大学のデジタルキャンパスマップ「Y’ s navi (ワイズナビ）」の開発を行いました。

MaaS でまちづくり班では、若者が関内地区に親しめるようにするべく、関内の飲食店を紹介するマップの作成を行っています。

京急富岡班では、地域の共有空間である「おかまちリビング」や、地域イベント「おかまちひろば」での企画実施等を通じて、まちの魅力発信や地域内の交流促進を目指しています。

村岡新駅班では、約10 年後に開業予定の村岡新駅周辺のまちの姿や人々の生活を描き出すために、地元の方々や小学生を対象にしたワークショップイベントを藤沢市とともに開催しました。

来年度はこれまでの活動を継続しつつ、連携先や地域の方々とのさらなる協力を図ります。魅力的な都市地域社会を目指して、より移動しやすく、移動が楽しくなる仕掛けや目的作りを通じ、魅力あるまちづくりを目指してまいります。

04

コットンおとなりさんプロジェクト
Cotton Otonari-san Project

高層マンション群の住民が
おとなりさんと繋がることのできる居場所を
To create a place where residents of high-rise apartments can connect with their neighbors

■学生：６名（美藤優斗, 安慶萌花, 入山璃暖, 佐々木遼太, 佐藤美優, 村山優々）
■担当教員：伊集守直, 関芙佐子
■連携・協力：Cotton Community Town（CCT）, 各自治会
■活動地域：コットンハーバー地区（横浜市神奈川区）
■サイト：https://cottonct.org/about_cotton_otonari_pjt/

現在、都心部への人口集中を背景に、マンションの増加が目立っています。また、高齢社会となっている日本では、住民間の助け合いが以前より一層重要になってきました。そこで本プロジェクトは、横浜市神奈川区にある「コットンハーバー地区」というタワーマンション群で、世代を超えて住民がつながることのできるコミュニティを作ることを目的に活動しています。

私たちは、2023年度、地域団体CCT(Cotton Community Town)や自治会、神奈川大学の学生などと協力しながら、主に５つの活動を行いました。一つ目は、地域交流や居場所の創成を目的としたCCTパークや子どもの自由な遊びを促すプレイパークなどの地域イベントの運営協力です。二つ目は、団体とその活動の知名度向上を目的とした公式LINEの運営やチラシ作成などの広報活動です。三つ目は、新たな地域ネットワーク形成や知名度向上のためのフリーマーケットの企画及び運営です。四つ目は、有事の際に備えて地域の特性を踏まえた防災情報を発信する動画の作成です。最後に、五つ目は、地方を元気にするアイデアを広く募集している「地方創生デザインアワード」への参加です。

2023年度は、前年度から継続して地域イベントの運営協力や広報活動を進めたことに加えて、10月に開催した第二回フリーマーケットでは参加者が約400人にものぼり、より多くの方に活動を知ってもらうことができました。これを受け、地方創生デザインアワードでは、約一年間のフリーマーケットの準備による地域のつながりづくりを主軸に活動の目的や今後の展望をアピールしました。2024年度は、これまでの活動に加え、フリーマーケットの企画や準備のなかで、地域に住む方々のつながりをさらに増やしていくことに注力していく予定です。

キャンパスの魅力を耕すプロジェクト
Cultivating attractions of campus project

キャンパスの土から新たな活動を掘り起こす。
Digging up new activities from the soil of the campus.

■学生：9名（青栁篤広, 熊谷風音, 寺澤慶, 鈴木健弘, 伊藤きい柚, 小栗航太郎, 川井慶, 清水琴美, 鈴木日夏莉）
■担当教員：藤原徹平
■連携・協力：Y-GSAインディペンデントスタジオ「耕すPJ」
■活動地域：常盤台（横浜国立大学キャンパス内）

コロナ禍により屋内に人々の居場所が失われたことを背景に、屋外空間での居場所づくりに可能性を見出しました。居場所をつくること、つかうことを通じて地域との交流を深めることを目的としています。緑豊かな大学内の資源を活用し、そこを訪れる人々が自由に居場所を見つけられるような魅力的なキャンパスを目指します。

春学期にはY-GSAのプロジェクトに学部生が参加し、レンガ作りや施工方法を学び、秋学期では学部生だけで活動を展開しました。今年度はキャンパスの資源由来のプロダクトづくりを目指し、日干しレンガの技術を応用しながら、版築によって窯を制作しました。試作段階ではあるものの、窯の温度は800℃まで上昇するなど、一定の結果を得られました。さらに、窯を設置した場所が新たなキャンパス内の活動の場所としてのポテンシャルを見せてくれました。今後、ここで学外の人を巻き込んだイベントをしていくことも考えています。
プロダクト製作に限らず、昨年度までの活動のノウハウも生かしながら、キャンパス内資源を活かし、学生と地域の交流を促進し、学びを活かす取り組みを展開していきます。

今後の活動では、窯を使った陶器の制作を進め、得たデータを粘土や窯に反映させていきます。また、ワークショップや大学周辺の陶芸サークルと連携した企画を考えています。さらに、窯の周辺に日干しレンガを応用したベンチやテーブルを設置して、Y-GSAのキッチンと一体となった空間を構想しています。大学の土がコミュニティを育む土台となることに期待し、新たな活動を創出していきます。

川根本町プロジェクト
Kawane-Honcho project

「美しい村」である川根本町で
獣害から茶産業を守るために鹿肉の啓発活動をしています
We are working to raise awareness of venison in Kawane Honcho, a “beautiful village,” to protect the tea industry from animal damage.

■学生：6名（長嶺裕太郎, 垣内学, 上河内廉太郎, 山本聖奈, 佐藤慶嗣朗, 田室志織）
■担当教員：山崎満広
■連携・協力：川根本町役場, 株式会社リバールーツ, 地域町おこし協力隊
■活動地域：静岡県榛原郡川根本町

静岡県の山間部にある川根本町は古くから茶産業で有名です。しかしながら、近年は鹿や猿などによる獣害に伴う耕作地破壊が進行しており、地域産業の根幹が揺らいでいる状況です。また、駆除された鹿の利活用はあまり進んでいないのが現状です。そこで私たちは、地域の活性化を目指して鹿肉の啓発活動をしています。

今年度の大きな活動の一つは常盤祭への出店です。常盤祭では「鹿肉の多い料理店」で、鹿肉トルティーヤや川根のお茶を使用した白玉、アイスを提供しました。物品については、川根本町で鹿角製品を製作・販売されている「リバールーツ」様の商品を販売させて頂きました。鹿肉トルティーヤに関しては三日間で200食以上を売り上げ、お客様からも臭みがないとの声を頂き大変好評でした。また、川根本町役場の方からのぼりやはっぴ、チラシを貸して頂き、広報活動も行いました。

現在並行して取り組んでいるのが、美しい村レシピコンテストへの出品です。こちらでは、鹿肉を使った棒葉焼きと鹿肉トルティーヤの出品を行いました。今年の現地訪問では、久野脇地区でのトイレのデザインコンテストと、川根時間のイベントに参加させて頂きました。

常盤祭での反響から、鹿肉については市場に受け入れられる可能性があると私たちは考えています。そこで、川根本町の狩猟イベントの際にも料理を提供できればと考えています。また、鹿肉だけではなく他のジビエ加工肉についても、需要と供給についての可能性を探っていきます。

鹿角製品に関しては本学で鹿の革製品を使った製品を作って起業している方や、経営学部でジビエについて研究されている先生がいらっしゃるようなので、そういった方々ともコラボしたり意見交換したりしていきたいと考えています。

07

はまみらいプロジェクト
Hamamirai Project

みらいのへの架け橋を創る、ハマのオールラウンダー
We are the all-rounder to create the bridge to the future of YOKOHAMA

■学生：36名（石和京華, 天野雄浩, 飯田理紗子, 伊藤美輝, 河野ひなた, 権頭望夢, 明事巧馬, 濵田幸大, 安宅建人, 久保智裕, 家護谷駿, 藤田光, 松田大生, 加藤汐夏, 齊藤優, 眞田季依, 藩楓由香, 大野倫, 延原翠, 室田美玲, 石坪秀一, 鈴木美空, 竹島優姫, 恒住彩和子, 西村柊哉, 石井遥大, 伊藤理名子, 中山瑞規, 青木遥香, 宇野滉真, 小林蒼生, 坂元夏希, 高田祥英, 波平恵采, 平井優作, 高橋寿志）
■担当教員：吉田聡, 野原卓, 稲垣景子
■連携・協力：UDC-SEA, 横浜市, 横浜みなと博物館, Yocco18, 常盤台コミュニティーハウス, 幸海ヒーローズ, 株式会社ELMA
■活動地域：横浜海沿い地域
■サイト：https://hamamirai.localinfo.jp,https://twitter.com/hamamirai_bosai https://twitter.com/yoko_hamamirai

はまみらいプロジェクトは、海洋都市横浜の街づくりに関するUDC-SEAの活動理念を元に創設されました。横浜を学生の立場からより良い都市にすることを目的とし、海沿い地域をフィールドに、3つのチームに分かれ、魅力の発信・課題の改善に取り組んでいます。

まちあるきチームでは、外部団体の方とも連携して金沢区と港北・鶴見区のまちあるきを行いました。道中では、周囲の建物や地形について話しながら、一日を通して地域の新しい魅力を発見することができました。また、昨年度作成したうみはまっぷすごろくを、多くの方に体験してもらう機会も作ることができました。今後も、自分たちの目でまちを見つめることができる活動を行っていく予定です。

防災チームでは、防災KOKUDAIに向けて防災人生すごろくを作成しました。止まるマスによって様々な災害が起き、それらをどんな防災グッズを用いて対処するかを考えるものです。ゲーム形式なので小さい子どもたちでも、楽しみながら防災の知識を深められます。防災KOKUDAI 後も市役所や地域のコミュニティハウスなどで実際に遊んでもらい、ゲームの改良を行ってきました。今後はこのゲームを小学校の授業に取り入れるなど活動を広げていく予定です。

ブルーカーボンチームでは金沢区でコンブを養殖を通して活動されている方々と協力し、近年地球温暖化対策として注目されているブルーカーボンの周知するために様々な活動を行いました。常盤祭では学生がパッケージデザインを手がけたコンブを肥料にしたお茶やコンブが入ったバスソルトを販売しました。今後はコンブの水揚げイベントなどに参加し活動の周知を図っていく予定です。

今後はチーム活動や個人の記事作成などで得られた経験や知識、構築された人々とのつながりを生かして、メンバーのやりたいことを活動に取り入れ、横浜の街をよりよい街にできるよう活動していきます。

08

島プロジェクト in 鳥羽　～現代世界の課題の探索と協力の実践～
Island Project in Toba -Discovering the Challenges of the Modern World and Practicing Cooperation

三重県答志島をフィールドに
島民と共に島の未来を創ります！
Creating the future of the island with people live there ～In Mie prefecture Toshi～

■学生：9名（落合祐飛, 八郷真理愛, 松本慧, 徳永裕隆, 浮田有我志, 大湊颯太, 上妻慶太, 前田龍之介, 長岡芽生）
■担当教員：小林誉明
■連携・協力：鳥羽市地域おこし協力隊 正林泰誠様, 三好美咲様, 鳥羽市議会議員 濱口正久様, 鳥羽市, その他答志島の住民の皆様
■活動地域：三重県鳥羽市答志島
■サイト：https://www.instagram.com/shimapj_toba

当団体は三重県鳥羽市答志島を起点に離島の文化や生活を理解し、その過程の中で発見した強みを伸ばし弱みを補う工夫を地域の方々と共に探っていくというコンセプトの元、2022年度に設立されました。現在は、答志島内の和具地域で以下の２つを運営しています。

①学生拠点プロジェクト

【目的】学生や島民との繋がり・アイデアによる答志島の活気付け

【活動】現在島内で宿泊する際の選択肢は少なく、金銭的負担や他旅行客への配慮が必要な場合があり学生の来島の障壁となっています。また、どうしても観光客目線になり、リアルな島体験ができないと感じていました。そこで、市から移住体験住宅を借りて学生拠点とすることで、安価の宿泊と島民目線での滞在体験を担保し、島民の方々の手伝いがメインの合宿イベントを企画開催し、学生が島に来るきっかけづくりと学生と島民の繋がりを創出する取り組みを行っています。

②ウッドデッキ制作プロジェクト

【目的】ウッドデッキを介した島民×島民、島民×観光客、島民×学生などの交流の輪による答志島の魅力の向上、ウッドデッキを『看板』とすることによる島内での認知度の向上

【活動】1年目での渡島を通して答志島では同世代で仲が良い人同士の交流が主で他世代や島外の人々とは中々関わりや交流がないのではという課題を感じていました。その中で、交流に適した立地にある土地を貸して頂けるということで、現在、1年を通して島を訪問し、現地で材料を調達しながら、ウッドデッキを設計・制作しています。

今後は、短期的には、今活動している各プロジェクトが目標達成までやり遂げて効果をあげ、長期的には、島の抱える課題を解決して、かけがえのない答志島での営みを持続可能なものと私、後世に残していくことを目指していきたいと思っています。

岩手らばーず
Iwate-Lovers

岩手を全身で味わい、発信する
Experience and transmit Iwate with your whole body

■学生：24名（西條, 清水, 鈴木, 澤里, 原口, 藤原, 本郷, 山田, 芹田, 臼田, 會田, 嶋田, 木内, 後藤, 塚崎, 利守, 佐々木勇, 吉田, 米田, 永田, 伊藤, 佐々木美, 前田, 森田）
■担当教員：田中稲子
■連携・協力：岩手県, 岩泉町, 葛巻町, 二戸市, KEEN ALLIANCE, レッドカーペットプロジェクト, 他多くの岩手の皆様
■活動地域：岩手県, 東北地方
■サイト：https://iwatekyouyouakaunt.wixsite.com/iwatelovers-ynu/blog

「岩手らばーず」は、私たち横浜の学生にとって文化的・地理的に大きく異なる岩手県や東北地方の様々なエリア、企業、団体を直接訪問し、岩手独自の取り組みや、横浜でも見られるような共通の地域問題を探求し理解することを目的とし、前年度に創設されました。このプロジェクトでは、教室での学びを越えた実際のフィールド体験を通じて、地域コミュニティとのつながりを深めています。今年度は、前年度と比較してチームメンバーが増加し、それに伴いプロジェクトの活動範囲と内容も一層充実しました。

岩手らばーずの活動として中心となっているのが夏の長期休暇を利用した岩手県での長期インターンシップです。2023年度は二戸、葛巻、岩泉のプログラムに参加させていただきました。インターンシップを通して肌で感じた経験や地元の方とのつながりを活用し、横浜国立大学で魅力を発信しています。他にも、各々で沿岸部や農村部に出向き、ドキュメンタリー映像の作成やインタビューの実施、職場体験など様々な活動を行いました。さらに、学内では今年度は5月の清涼祭、6月のオープンキャンパス、9月のぼうさいこくたい、10月の常盤祭に出店し、岩手県で製造販売されているチキンカレーや椿茶の販売を行い、同時に団体としての活動内容やそれぞれの経験を発信しました。

今後は前述した活動の継続に加え、農業・畜産・防災など、各々が興味のある分野に関して、より踏み込んだ活動を行い、さらに深い知識と教養を身に付けることが出来るよう取り組んでいきます。また、活動を通じて得た学びや発見した岩手県の魅力が少しでも多くの人に伝わるよう、そしてそこから関心を持っていただけるよう、情報発信の場を広げるなど、実際のフィールドワーク以外の部分にもより注力していきます。

New-New Townプロジェクト
Discover the new value of New Town

万騎が原で活躍する方々「まきがはらーず」を冊子＆ウェブサイトで発信
Express the charm of “Makigahara-ers”, players of Makigahara area through booklet and website

■学生：12名（赤坂晃太郎, 出射みらい, 井戸元奏磨, 影山萌花, 齋藤菜月, 水城健太, 林瀧渓, 坂井雅姫, 佐山千尋, 藤田美涼, 森田彩日, 油井奎音）
■担当教員：野原卓
■連携・協力：万騎が原中央商店会, みなまきラボ運営委員会, (株)オンデザインパートナーズ, 横浜市・相鉄グループ(相鉄いずみ野沿線 次代のまちづくり)
■活動地域：相鉄線二俣川駅～相鉄いずみ野線南万騎が原駅周辺エリア
■サイト：https://ynunewnewtown.wixsite.com/website
Instagram: @ynu_newnewtown　X: @ynu_newnewtown

私たちは、戦後に神奈川県と相模鉄道によって開発された相鉄線沿線の万騎が原エリアをフィールドに活動しています。横浜駅や都心へのアクセスがよく、かつては人気の郊外住宅地でしたが、 高齢化が進んだことでかつての活気が失われつつあります。そこで、私たちはかつて「New Town (ニュータウン)」と呼ばれた活気のある郊外住宅地を、新たな形で取り戻し「New-New Town」とすることを目標に活動しています。

今年度は、万騎が原に住む・活躍する地域の皆さんを「知る」、「発信する」活動を行ってきました。まずは6月に、南万騎が原駅前にあるまちづくりの拠点「みなまきラボ」の会員となり、8月に地域の方と交流するイベント「みなまきカフェ」を開催しました。そして9月から約3ヶ月にわたって、みなまきラボ会員や万騎が原中央商店街、これまでお世話になった「まちの先生」の方などへのインタビューを行ってきました。その中で、普段なかなか交わる機会の少ない地域の方々を同時にインタビューする「オープンインタビュー」企画も３回実施し、「みなまきピクニック」や「みなまき一箱古本市」などまちのイベント時の突撃インタビューも含め、合計20回を超えるインタビューを行ってきました。最終的に、私たちは万騎が原で活躍する方々を「まきがはらーず」と称し、皆さんの魅力を発信する冊子＆ウェブサイト「まきがはらーずかん」を作成しました。

今年度の地域の方々を「知る」「発信する」活動によって、これまで潜んでいた地域の「ひと」の魅力が可視化され、ニュータウンに住む地元の住民も、外からニュータウンに関わる人も地域に対する新たな発見や愛着につながるのではないかと考えました。さらに今後は、これまで培ってきた地域の方々とのつながりを大切に、ニュータウンの新たな賑わいにつながる活動や企画も展開していく予定です。

転倒しない街共創ラボ
Not Falling Down City Co-Creation Lab

転ばない街を「技術」「対話」「運動」で現実に！
何歳でも転倒知らずの世の中へ
Making Not Falling Down City a Reality through Technology, Discussion, and Exercise!
Toward a world without falls at any age!

■学生：5名（小川康太, 樫本和奏, 久保春奈, 大谷紗慧, 丹羽里歩子）
■担当教員：島圭介, 大沼雅也, 藤岡泰寛, 小林知恵ほかBSD研究拠点職員
■連携・協力：BSD研究拠点
■活動地域：常盤台ケアプラザ, 左近山ケアプラザ
■サイト：https://bsd.ynu.ac.jp/index.html

転倒しない街共創ラボ「こらぼ」は高齢者の転倒リスク計測技術の社会実装を通して，誰もが転倒を恐れることなく健康に過ごせる街を実現することを目的として、2022年度に創設されたプロジェクトです。

2023年度は常盤台ケアプラザを主な活動場所として、近隣にお住まいの後期高齢者に対して、全2回の継続的改善プログラムを実施しました。１回目では転倒リスク測定技術に関する説明と体験、計測結果と普段の生活リズムに基づいた改善体操の提案を行い、２回目では改めての再計測と改善体操に対するディスカッションを行いました。

左近山地域ケアプラザでは保健活動推進員保活の方々を対象に、転倒リスク計測の体験会を実施しました。自分の担当している地域でどう活かせそうか、不安な点は何か、様々な視点から貴重な意見を頂けました。

運動に対するインセンティブの検討として、地域通貨に関して藤岡先生を始め、神奈川県の職員や大学教員と意見を交わし、地域通貨の良い点、悪い点、持続的な運用のための仕組みについて学びました。

今後は、まず２月初週に開催されるYOXO FESへ出展し、転倒リスク計測技術の基礎となる現象に関連したワークショップを実施します。幅広い年齢層の方々にも興味を持って体験してもらう他、転倒リスク計測技術に対する期待や不安の聞き取りを行い、来年度以降の活動へ活かしていく予定です。引き続き、転倒リスク計測技術が当たり前に使われ、誰もが転倒することなく健康に過ごせる社会の実現を目指して、市民の方々と対話を重ねて参ります。

おおたクリエイティブタウン研究プロジェクト
OTA CREATIVE TOWN PROJECT

”モノづくり”を活かし
大田区ならではの魅力あるまちづくりに取り組む
I make use of "manufacturing"
I work on attractive town planning only in Ota

■学生：11名（的羽祐奈, 小泉勇真, 佐々木健斗, 古田峻馬, 東陽輝, 三吉康太, 安井健悟, 都筑あずさ, 森田彩日, 宮沢七菜, 芝上明花香）
■担当教員：野原卓准教授
■連携・協力：東京都立大学, 大田観光協会, 工和会協同組合
■活動地域：東京都大田区
■サイト：https://oct-c.com/

東京都大田区新田丸エリアでは、大規模な工場と中小の町工場が多く集まり、世界に誇る技術を持つ”モノづくり”のまちとして栄えてきました。しかし、近年は工場の海外進出や後継者不足から工場の閉鎖・移転が多くみられ、住宅へと建て替わり、まちの特徴である工場・技術が失われつつあります。

そこで、おおたの特徴であるものづくりをベースとしたまちづくりを「公（行政や公共的組織等）」×「民（民間企業・組合団体・区民等）」 × 「学（大学・学校・専門機関等」の多主体が連携して進め、新たなモノづくりの力を生かして大田区の豊かな場づくりを進めています。活動内容としては、毎年行なっている「おおたオープンファクトリー（OOF）」での拠点企画に加え、今年から工場磨き上げプロジェクトと呼ばれる、学生による工場のさらなる魅力の掘り下げ・発信を行いました。また、月に一度の学生企画によるイベントも行い、工場のまちの魅力発信を行いました。学生企画のイベントでは、地域の道遊びの方とも共同でイベントを開催することができました。

今後は、おおたオープンファクトリーでのおおたのまちや工場の魅力の掘り下げを更に行い、大田区ならではの魅力あるまちづくりに取り組みたいと思います。また、他主体との連携などを通じて、地域で活動の場を広げていくことで、おおたクリエイティブタウン研究プロジェクトのさらなる発展を目指したいと思います。

データで捉える地域課題・地域経済プロジェクト2023
Analyzing regional issues and economies based on data in

経済学やデータの視点からみた社会の課題や現状
Current state and issues of local societies form economics and data analysis perspectives

■学生：31名
■担当教員：池島祥文, 居城琢
■連携・協力：横浜市政策局, 関口昌幸様
■活動地域：横浜市, 神奈川県

当プロジェクトでは、各グループに分かれて、地域の諸アクターとの連携を行いながらプロジェクトを運営してきています。多様な研究が行われている中で、様々な成果が出ており、それらを中間報告会や最終報告会の中で共有し、それぞれ各グループに持ち帰って意見交換をしながら進めています。

池島グループでは、横浜におけるサーキュラーエコノミーをとりあげ、その「循環」状況に関する実態調査を進めるとともに、観光地である箱根町を対象に、その観光業に特化した産業構造の特殊性を他地域との比較から析出したり、また、自治体の歳出入構造について着目し、地域差からその課題を整理したりしています。既存データの分析にとどまらず、現地調査を通じてデータを創る取組みを進めています。

居城グループでは、地域経済について自分の興味関心と様々な事象を関連付けテーマを作成し、学生が実際にアンケートや統計を取り考察を深めています。研究例としては、サッカーチームのサポーターや地方空港、音楽フェスティバル、テレビ番組の経済効果研究があげられます。ゼミ内では学生間でアドバイスし合うことで新しい手法や考察が生まれており各々の研究がより深まっています。

今年度の研究によって、様々な角度から社会の現状や課題をみることができ、今後の研究の幅を広げることができました。来年度以降の研究では、今年度の研究で得られた結果や経験などを活用し、各グループで連携しながら取組むことで、さらに良い研究につながると考えています。

サコラボ
Sacolabo

国大生と左近山のコラボでミライをデザインします。
We design the future in collaboration with Sakonyama community.

■学生：24名（落合佑飛, 中村優真, 平田雄基, 年盛文也, 寺澤慶, 佐藤咲希, 富田涼太, 長岡稜太, 笹森遥, 南村紬, 寺田優衣, 竹中美裕, 青柳篤広, 澤口鈴穂, 佐藤信哉, 渡邉まるり, 山本莞太, 髙木温, 安井圭, 塩野雄史, 岡宮愛, 樫田航太, 高橋夢菜, 奥野史歩, 松原稜）
■担当教員：藤岡泰寛
■連携・協力：NPO法人オールさこんやま(連携), 左近山ショッピングセンター・ケアプラザ(企画アドバイス等)
■活動地域：左近山団地(横浜市旭区)
■SNS：X(旧Twitter) ID:@sacolabo_danchi
Instagram ID:@sacolabo.danchi2022_ facebook ID:@sacolabo

相鉄線二俣川駅からバスで約15分の場所に広がる、「左近山団地」。商店街のお祭りや、小学生向けの地域イベントが毎月開催されるなど、地域活動の活発さが魅力な一方、47%にものぼる高齢化率などといった課題も抱えています。そんな左近山の地域活動をさらに盛り上げつつ、教育・福祉・防災などに関するイベントを企画し、小さいお子さんから高齢者の方まで、幅広い世代の住民の方々と「コラボ」しながら団地の魅力向上に取り組んでいます。

今年度は、団地内部に新たなエンターテイメントを生み出すべく、映画の自主上映を行う「団地映画祭」や、地域のお祭りで手作りの窯でピザを焼き、その窯を非常時の炊き出しにも役立てられるよう訓練も行う「ピザ窯ワークショップ」、小・中学生と交流しつつ、勉強などさまざまな相談に乗り団地内での教育環境の充実を図る「さくら教室」などを行いました。また、地域主催の小学生向けイベント「日曜ほっと」にも参画し、ハロウィンやクリスマスなど季節に応じた企画を実施しました。

団地に実際に居住して活動している学生もおり、外から左近山に通っている学生とともに内外両方の視点から地域課題を見つけ、アイデアを生み出し、実際の活動に活かしています。また似顔絵や移動式サウナの設計など、「得意」としていることを左近山にメンバーが自発的に持ち込み、地域に還元しているのも特徴です。

地域活動の活発さや、豊かな屋外空間といった左近山の魅力を活かしたイベントを開催し、団地内外のさらに多くの人が地域の魅力に気づき、愛着を抱くようになることを目指しています。また、地域の方々と交流しながらイベントを楽しむことで、学生自身も左近山を「帰ってきたい居場所」と思えるようになるような活動を心がけ、左近山団地の継続的な発展に貢献していきます。

15

里山コミュニティデザイン
Satoyama Community Design

里山コミュニティデザイン

里地里山を拠点に、人間と生物にとってより心地よい居場所の創造
Creation of more comfortable location of humans and other living creatures based on satochi-satoyama

■学生：21名（久保蒼生, 中村心寧, 山内葵, 松本三千尋, 松嶋瑞穂, 大橋明日香, 鈴木海帆, 吉田涼香, 長田拓之, 武内那岐, 西川聖哲, 内野文敬, 佐藤愛弥, 戸澤玄, 大島淳史, 千葉美衣菜, 松栄凛也, 山口暖乃, 高野素子, 福田優茉, 原田悠妃）
■担当教員：佐藤峰, 倉田薫子
■連携・協力：花咲く里山（南足柄）
■活動地域：横浜国立大学, 南足柄市
■サイト：https://satoyama-esd.ynu.ac.jp/?p=465

横浜国立大学と言えば？と質問されたら、多くの学生が緑や森といった自然に関する回答するでしょう。このように横浜国立大学の自然は学生にとってシンボル的存在だと認識されています。しかしながら、学内の自然と人は互いに独立しながら、その営みを発展させているのではないでしょうか。そこで、学内の自然という足元にある里地里山の資源を生かし、人と生物、自然にとってより心地よく、楽しい居場所にするために、様々な方針策定、思考をすることが本活動の目的としました。

まず、国大内の自然を細分化し、私たちが活動する拠点を「竹林」と決定しました。竹林整備をしながら、南足柄市にある「花咲く里山」の方々に協力していただき、学生が本場の里山整備を体験しました。横浜国大と花咲く里山での経験を往還させ、自然を整備することへの理解を深めました。その後、廃材を用いた流しそうめん大会の実施、常盤祭出店に伴う竹箸作りや楽器作り、小学生を招待して開催したESDワークショップの企画材料など、多方面への竹の有効活用を見出すことができました。

上記で、人と生物、自然にとってより心地よく楽しい居場所を創造することを目的としていましたが、今年度の活動では実現されることはありませんでした。理由は伐採した竹を放置しておくと腐ってしまうため、廃材となった竹の有効活用を優先して、本プロジェクトの活動としたことがあげられます。そのため、今後の活動では自然の利活用だけでなく、人と自然が共存する空間創造にも力をいれていきたいです。現時点での案として、竹林に茶室を作ることが挙がっています。興味のある方はぜひ参加してください。

16

ローカルなマテリアルのデザイン
The Design for Local Materials

広葉樹を用いた家具・スツールの製作
Designing furniture and stools with broad-leaves trees

■学生：9名（稲永拓真, 鈴木拓弥, 岩佐達樹, 岩屋亜海, 梅根悟嗣, 追分美希, 是村颯太, 豊田亜美, 花岡将真）
■担当教員：志村真紀, 原口健一
■連携・協力：太田クリエイティブタウンセンター, 関鉄工所, 寺田倉庫, 河端昌也教授,（株）木材工房あしがら
■活動地域：横浜国立大学キャンパス内/羽沢地区/神奈川県
■サイト：Instagram：タグ「＃ローカルなマテリアルpj」

広葉樹は樹種および各樹木により形が異なり、硬く加工が難しいため、現代社会において有効活用がなされにくいという現状があります。このプロジェクトでは、広葉樹を用いた制作活動を通して、里山の広葉樹を上手に活用する方法を研究しています。

今年度は昨年度から引き続き2024年10月完成予定の羽沢横国大駅前に建設中の羽沢リビオタワー内に設置される横浜国立大学羽沢サテライトキャンパスの什器製作を行いました。現在椅子6脚と大机のデザイン並びに製作を行っています。１年生は椅子を、3年生は大机を担当しています。具体的な活動としては、昨年度制作した椅子（写真右下）の仕上げを行った後、椅子の座面となる木材の鉋がけ加工を原口先生が管理する工房で行いました。大机は、サテライトキャンパスにおける配置からデザインし、その後天板の細かいデザインを進めてきました。そして、椅子並び大机の大まかなデザインが決定してからはどちらも脚部のデザインを決めるべく話し合いを進めました。また、安全に使用できるかどうかの構造計算の方法を構造専門の河端先生にご指導いただきました。11月にはリビオリタワーをデザインしている寺田倉庫さんとご一緒させていただき、建設途中の設置予定地を訪れました。また、左の写真の一部は夏休みに参加した南足柄市の製材所における製材所ワークショップです。木材加工の現場を見学し、丸太を切った直後の木くずの香りを嗅ぐなど貴重な経験をさせていただきました。

1月のZOOM会議を通して、太田クリエイティブタウンセンターを通じて紹介してもらった関鉄工所さんに椅子並び大机の脚部の制作を依頼することとなりました。2月には関鉄工所さんと協力して脚部の最終的なディテールデザインを決定させ、羽沢リビオタワーの内装工事に間に合わせるため9月までに完成、搬入を目指していきます。

まちに開いた交流の場のデザインーYOKOCO-
Designing a place for exchange open to the community

1.6.7. キャンドルナイト
2. ランプシェードワークショップ
3. 和菓子＆茶道＆体験会
4. 出張 DIY 完成写真
5. 野毛山新聞

住宅地の価値を上げる
Increasing the value of residential property

■学生：16名（山田伸希, 石津心之輔, 今野偉吹, 室本剛志, 音喜多顕大, 新井希緒, 伊藤空翔, 大島健太, 小見壮也, 土山実希, 西山日々希, 他）
■担当教員：江口亨
■連携・協力：NPO法人Connection of the Children
■活動地域：野毛山, 東ヶ丘
■サイト： https://www.coc-i.org/

YOKOCOは野毛山公園の裏の住宅地に、二軒長屋を改修して2Fをシェアハウス、1Fを地域に開いた場にした「casaco」で活動しています。その場の使い方の提案や、運営者の了解がえられれば提案内容を実行に移し、エリアの価値向上を目指しています。

地域に開いた場をつくるため、完全ボランティアでもなく、「稼ぐ」ビジネスを立案するのでもなく、その中間の方法を模索しています。全国に広まりつつあるソーシャルビジネスの方法論の一端を、実践を通じて学ぶことを目標としています。

昨年度からメンバーの1人が管理人として住み、より密接にカサコの活動に携わり、DIYや毎月出版している野毛山新聞の編集、その他イベントの運営などをしてきました。DIYでは、縁側や本棚を作った経験を元に、casacoから飛び出て近所の方のDIYを募集し、夏に完成しました。野毛山新聞では一年生を中心に野毛エリアをリサーチし、近所の方も知らなかった野毛山を発信することを目標に発行しました。イベントとしては夏休みに実施した夏祭りやランプシェードワークショップ、12月に行われたキャンドルナイトの企画、運営に携わり、多くの地域の方々に参加していただき、地域交流拠点としての存在価値を改めて実感しました。

今後は、現在進行中の出張DIYの施工を3月に行う予定です。また今年度は、YOKOCOがCASACOにより密に関わり始めた最初の年でした。そのため、それぞれの活動が手探り状態で課題も多く見受けられました。来年度はこの課題をYOKOCO内で議論し合い、ただ伝統を継承したり不足を補ったりするのではなく、YOKOCOとしてCASACOに問題提起、提案をしていけたらと考えています。

みなとまちプロジェクト
The Port City Project

清水の歴史文化に関わる地域資源のブランディング
Branding Shimizu's history with local resources

■学生：9名（山口大輔, 廣瀬亜紀, 武藤有花, 岡田秀永, 中田宙希, 佐賀淳基, 松本真羽, 矢野誠悟, 中根遼）
■担当教員：志村真紀
■連携・協力：常葉大学, 東京大学, 九州大学, 茨城大学, 静岡理工科大学,静岡市経済局海洋文化都市推進本部, 静岡県清水港管理局, ぬくもり園, 次郎長と港を活かした清水活性化協議会, 伊豆石文化探究会
■活動地域：静岡県静岡市清水区
■サイト：https://www.ynu-minatomachipj.com/

みなとまちプロジェクトは、横浜と同じ港町である静岡市清水区の歴史文化に関わる地域資源をブランディングするために活動を行っているプロジェクトです。清水は横浜と同じ国際貿易港であり、近年ではクルーズ船の寄港地にも選ばれ、国内外から多くの観光客が来ていますが、清水を経由して他所へ観光に行く人が多い状況があります。そこで、清水港の発展に寄与した地域資源として、お茶、伊豆石、清水次郎長、倉庫群、港湾線、富士山をブランディング・エッセンスとして位置づけ、横浜の学生という外部の視点から清水のまちを盛り上げるべく、まちづくり活動を行っています。

今年度はコロナ禍による活動制限が緩和されたため、対面での活動機会を増やしつつ、昨年度は行えなかった活動の拡充を図りました。清水には５月・８月・１２月と３度訪問しており、８月には学生たちで実際に手揉み茶の製茶作業を体験し、地域特有かつ伝統的である手揉み茶の文化の重みについて再確認しました。５月および１２月には、次郎長商店街をはじめとした清水のまちや博物館を巡り、清水の歴史や現況について理解を深めました。大学の文化祭では昨年度も行った、学生によってブランディングされた茶葉の販売だけでなく、学生が製茶した手もみ茶も実際に飲める形にして提供しました。また、他大学の学生より茶葉を輸出する際に用いられていた蘭字ラベルを活用したまちおこしについて提案を受けており、具体的なあり方について検討しました。

今後は、引き続き蘭字ラベルを活用したまちの活性化を実現するために現地との調整を行いつつ、清水の地域資源について町の内外へ発信していけるよう、より一層取り組んでいきます。

19

ワダヨコ
Wadayoko

和田町で、人と人との、今と未来との架け橋になる
Become a bridge between people, now and in the future in Wada area

■学生：27名（佐藤めぐみ, ソジファン, 渡由貴, 粕谷昌貴, 堀雅也, 井澤葵美, 伊藤幸哉, 海野萌, 大野倫, 河崎蒼依, 後藤陸, 平美優, 中原舶登, 宮下莉奈, 山下虎太郎, 山﨑優子, 山本純也, 有倉直哉, 池田萌夏, 乾大和, 河口紗香, 佐々木遼太, 瀧本早蘭, 福島瑞穂, 星野良太, 三村涼葉, 八坂麟太朗）
■担当教員：野原卓, 尹莊植
■連携・協力：和田西部町内会, 和田町商店街, 和田西部第一子供会, NPO法人居場所そら
■活動地域：和田町周辺（主に保土ヶ谷区和田）
■サイト：http://wadayoko2010.com Twitter:@wadayoko_twi Instagram:@wadayoko_

2010年から続く、現在の地域課題実習の中で２番目に古い学生団体です。当初は町の拠点である旧町内会館を１年間かけてリノベーションするために成立しましたが、その場所を利用する中で様々な人との交流が増え、町の団体と協力してイベントを実施するようになりました。今では、和田町（保土ヶ谷区和田周辺）の魅力を見つけて周知しながら、学生と町の人たちが互いに支えあう地域をつくることを目的として活動しています。

町の公園や小学校で、子供たちに楽しみながら防災について学んでもらう防災フェアや、各出店者が自慢の品を持ち寄るべっぴんマーケット、季節のお祭りや行事など、様々なイベントの主催や共催をしました。今年度は、コロナ禍が明け開催の規模が拡大したことと併せてメンバー数が増加したことで、学生ならではの視点で新しい企画を提案したり、若い力で運営に大きく貢献したりすることができました。ワダヨコ、町内会、商店街、教授で行う定例会議「和田町タウンマネジメント協議会」にも毎月参加し、組織を横断した情報共有や協力の活性化のサポートに努めました。また、和田町で親しまれ続けるゆるキャラ「和田丸」のプロデューサーとして、修繕やグッズ作りにも取り組みました。

年間を通して行ったイベントには、コロナ禍を乗り越えて数年ぶりの開催となったものが多くありました。将来に繋げていく力のある学生団体として、これらを楽しみにしている人たちのために長きに渡って大切に受け継いでいこうと思います。そして、今年度新たに繋がることができた方たちとの関わり方も積極的に模索しながら、和田町周辺でのフィールドをさらに増やし、より広く密接な交流をしていきたいと考えています。

20

ハマの屋台プロジェクト
YNU Wagon Project

移動式屋台で人とまちをつなぐ
Connecting People and the Community with Mobile Wagon

■学生：30名（三浦萌夕, 奥村真妃, 尾崎龍樹, 梶遼太郎, 齋藤佳奈, 平原裕大, 大木諒音, 佐藤那津, 田中もも, 安宅建人, 樫本和奏, 内村姫那, 川口南, 竹永怜生, 前田菜々子, 磯崎碧, 草深篤志, 小藪有紗, 後藤理紗, 酒井大輝, 中野洸, 佐藤美宇, 高尾諭良, 土田英尚, 西村心, 船田果鈴, 池田萌夏, 石井海己, 坂本早翼, 伊藤悠真）
■担当教員：野原卓
■連携・協力：常盤台地区連合町内会, 住好自治会, Circular Yokohama (qlaytion gallery), (一社)横浜青年会議所
■活動地域：主に常盤台地区、関内・関外エリア
■サイト：http://www.instagram.com/hama_yataipj/

ハマの屋台プロジェクトでは、まちの賑わいを生み出すツール「ほどわごん」の提案以来、活動地域の需要や状況に合わせた移動式屋台の製作と運用を行ってきました。

今年度は常盤台地区と関内・関外地区の活動を継続しつつ、他地域にも活動を展開してきました。これまでは、常盤台では「ほどわごん３号機」、関内・関外では「かんないわごん」と地域で屋台を使い分けて活動してきましたが、それぞれの強みが異なることから、地域ではなく場面に応じて屋台を使い分ける・併用するという新たな活動スタイルにも挑戦しました。コンパクトなほどわごんは物の販売用、ユニークな形のかんないわごんは滞留空間として使ってもらえることが多く、屋台を通じて人々の豊かな活動を興すヒントが得られました。

常盤台では、納涼盆踊りやワイワイ文化祭りへの出展を通じて、自治会の皆様との連携を深めつつ、子供たちにも楽しんでもらいました。ミニゲームやマッピングワークショップを同時に実施することで、学生と地域住民の交流やまちの魅力の再発見にも繋がりました。また、学内ではアグリッジプロジェクトやお弁同販売とのコラボ企画を実施しました。関内では、さくらテラスへの出展により関内らしいクリエイティブな体験を創出しました。他団体の可動式空間とともに場づくりをすることで、相互作用の中で生まれるかんないわごんの価値を発見できました。２月にはYOXO FESTIVALに出展予定で、健康に過ごせる広場の在り方について、屋台を活用しながらワークショップを開催します。他地域では、根岸公園のハロウィンイベントへの出展や星天qlayへの常設展示により、賑わいや滞留空間の創出に貢献しました。

今後は、常盤台では、ほどわごん４号機の製作を見据え、フィールド調査や住民の皆様との意見交換を進めます。関内では、かんないわごんをより日常的に活用してもらうための施策を検討していきます。

南米農村部での学びを生かした横浜「共生」プロジェクト
Yokohama “kyousei” project

参加人数・開催頻度ともに去年より増加
笹山団地での子どもの居場所作り
Both the number of participants and frequency of events increased from last year, creating a “place” for children in Sasayama Danchi.

■学生：14名（本藤理子,杉江つくし,入江ひなた,片桐綾乃,根岸佳奈,奥山琴音,湯本莉衣,北村あすか,森結希乃,重村なはな,中谷笑理,中島ちなつ,橋本真,橋口奈奈緒）
■担当教員：藤掛洋子
■連携・協力：認定特活ミタイ･ミタクニャイ子ども基金,ベネッセ子ども基金,かなとも基金,橘ライオンズクラブ,横浜保土ヶ谷ライオンズクラブ,横浜市保土ケ谷区社会福祉協議会,県営笹山団地自治会,笹山地区社会福祉協議会,神奈川県,渡邊敏彦様,日本ケンタッキー･フライド･チキン株式会社,株式会社ジャンボリア,日本ウインナー株式会社,保土ケ谷区子ども福祉支援課,笹山保育園,上菅田地域プラザ
■活動地域：神奈川県営住宅「笹山団地」
■サイト： FaceBookページ https://www.facebook.com/ynu.mitaimitakunai

本活動は、2020年から認定NPO法人ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金（以下、ミタイ基金）と横浜国立大学の地域課題実習、上菅田地域の各アクターと連携して実施しています。

活動目的は、複数のアクターが緩やかに連携することから、地域の子どもたちが集まる空間を作り、不登校や外国にルーツを持つ子どもたちも含め、子どもたちがありのままの自分になれる場所を提供することです。

笹山団地102号室を毎週土曜日10-12時で開放し、笹山団地や近隣に住む子どもたち（不登校や外国にルーツを持つ子どもも含む）に対し、
①横浜国立大学学生他による食事（お弁当や軽食）の提供（月1回）
②大学生ボランティアによる宿題や自主学習教材などの子どもたちの希望する学習支援
③勉強以外の、遊びや自分達のやりたいことを行うことの支援
④大学生スタッフの大学での学びを生かした、多文化共生や季節のイベントのイベント・ワークショップの開催
を行っています。以上を通し、学年を問わず地域の子どもたちを受け入れています。

現在、5~10人の子どもが毎週参加していますが、団地の子どもや外国にルーツを持つ子どもの継続参加には課題が残っています。言語や宗教による食文化の違い、保護者の方の理解などの要因を探っている段階です。調査を踏まえ、来年度は子どもが団地内からも継続的に通ってもらえるような場所にしていきたいです。また、多文化共生について伝える機会を増やして、すべての子どもたちが豊かで笑顔あふれる生活を送れるよう活動していきます。

Yokohama Univer-City (YUC)

キャンパスデザインとコミュニティ創出によって
「大学をまちに開く」
Open our university to the city, by designing for campus and creating communities.

■学生：14名（井上彩子, 木崎拓実, 佐藤さくら, 柴田夕奈, 日比野莉良, 山下優輝, 佐武真之介, 富樫悠也, 中原舶登, 日向野温, 廣田慎一朗 ,中園拓也, 夏目朱理, 八坂麟太朗）
■担当教員：三浦倫平
■連携・協力：都市科学部, 常盤台地区連合町内会/常盤台地区社会福祉協議会, 共育会
■活動地域：横国大常盤台キャンパス周辺, 都市科学部棟104スタジオ, 横浜市常盤台コミュニティハウス
■サイト：https://104scape.wixsite.com/yokohama-univer-city
https://twitter.com/104ura_pj_YNU

YUCは、「大学をまちに開く」をテーマに始まった学生主導型プロジェクトです。都市圏の貴重な自然が保護された横国大のキャンパスでは、多様な人々による積極的な交流がなされています。YUCは、この魅力的なキャンパスを中心に新たなコミュニティの創出や空間デザインの提案・実践を行ってきました。大学から地域全体の価値を高めた先にあるものとして、“Univer-City” という言葉を掲げています。

ほぼ全ての活動は、所属メンバーの自主的な企画・提案によって進められてきました。学内では、都市科学部と協力体制のもと、まちづくりで実用化されているプレイスメイキングの手法を用いた実証実験をもとに、都市科学部講義棟エントランス空間の機能改善を模索しています。また、本・黒板を介して見知らぬ人同士の繋がりを生む企画を実施し、大学の新しい利用方法の提示やコミュニティ空間の創出を行い、キャンパスの魅力向上を目指しています。

地域連携においては、大学への理解を深めてもらう機会として小学生向けのキャンパスツアーの開催、学生と地域の方々の交流促進及び地域施設の認知度向上と利用促進のためのワークショップの開催企画を行い、これまで地域の方々と築いたつながりをさらに深められました。さらに、地域課題実習と常盤台地域の情報を知ることができる情報誌「ときわだい掲示板」を他の地域課題実習と連携して作成、常盤祭にて配布し、多くの方に手に取っていただけたことで、地域課題実習と常盤台地域に関心を持っていただける機会を作り出しました。

今後は他の地域課題実習との連携強化など学生同士のつながりをよりいっそう深めることはもちろん、地域住民や大学運営との連携・協力関係をより一層強固なものにしていきます。そのうえで企画の対象者を拡大し、キャンパスだけでなく横浜中心市街地などにも活動範囲を広げ、様々な企画を実践していく予定です。

23

再生可能エネルギー経済循環プロジェクト
Circular Eco Project

循環経済×循環資源
Circular Economy and Ecology

■学生：7名（藤尾 好太郎, 江川海人, 楯洋行, 唐牛凌我, 坂本葵, 杉本真菜, 平井沙良）
■担当教員：山崎満広
■連携・協力：南砺市エコビレッジ推進課, なんとエナジー
■活動地域：富山県南砺市
■サイト：https://circular-eco.wixsite.com/website

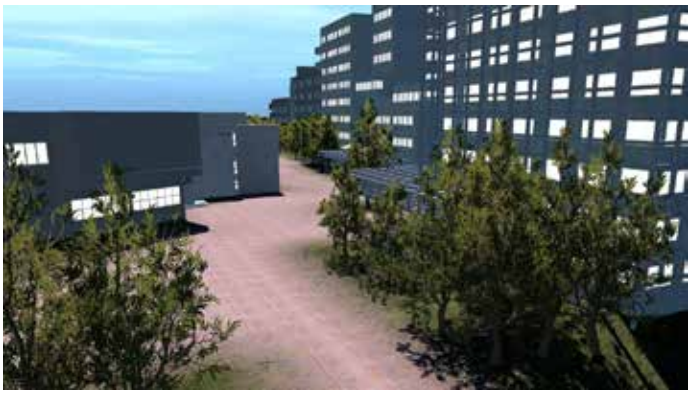
地域経済循環の停滞が進む中、その解決に向けて、エネルギーや地域資源が大きな鍵となります。昨年度に引き続き、富山県南砺市エコビレッジ推進課、なんとエナジーと協力し、再生可能エネルギー、特に南砺市が力を入れている木質ペレットの活用、普及を通して地域内経済循環を目指します。

富山県南砺市エコビレッジ推進課とのオンラインミーティングや事前調査により、南砺市の自然素材やエコビレッジ構想について学んだのち、夏季休業期間に南砺市を訪問しました。南砺市における太陽光パネルのアンケート調査や工場見学等による木質ペレットの実態把握、「南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ」での運営補佐、その他南砺市の文化を把握しました。その後、太陽光発電の需要や可能性について、分析・考察を行いました。木質ペレットについても、その課題を把握し、今後の展望を構想しました。再生可能エネルギーとして木質ペレットを利用していく際の大きな課題の一つである、燃焼灰の処理に着目し、「燃焼灰の活用法」を南砺市エコビレッジ推進課に提案しました。南砺市内のデパートで行われる、南砺市役所による木質ペレットのPR活動に、資料の展示という形式で参加させていただくことになりました。また、南砺市の文化のPRや、それら文化を取り入れた地域内経済循環についても構想を練っています。

このプロジェクトとしての活動は終わってしまいますが、このPJで学んだことを活かし、地域資源の循環を通した地域経済の活性化について考えていきます。

24

横国VRキャンパスプロジェクト
YNU VR Campus Project



誰もが自由に関われる大学を目指し、
キャンパスをVR化しています
Aiming to be a university
where everyone can freely interact,
we are transforming the campus into VR.

■学生：5名（梅澤希, 青砥陸, 安田周世, 田中大志, 上田直弥）
■担当教員：為近恵美
■活動地域：横浜国立大学
■サイト：https://vrynu.com

新型コロナウイルス感染症の5類指定以降、一度はオンライン中心となった社会は元に戻りつつあります。しかし、再び社会が感染症などの脅威にさらされることが無いとは言い切れません。また、オンラインには例えば場所や時間を選ばないという良さがあり、今後も残っていくと考えられます。しかし、オンライン会議などでは実際に会って話すようにはいかず体験の質には課題があります。本プロジェクトでは、VRを活用してオンラインと対面での体験の質の差を縮めることを目指しています。特に、研究や教育の場での活用を目指しています。また、現実のキャンパスで実現することが難しいことでもVR空間上なら自由な発想で実現できるという点や、遠い場所に住む方や障がいを持っている方など横浜国立大学を訪れることが難しい人でもキャンパスを体験できるという点もこのプロジェクトの強みです。

6月に開催された都市科学部オープンキャンパスでは参加者にVRゴーグルを装着してもらい、VRキャンパスを見学してもらいました。9月には東京ゲームショウを見学し、最新のVR関連技術への知見を広めプロジェクトの今後の展望を検討しました。本プロジェクトは国土交通省が主導する3D都市モデルオープンデータ化プロジェクト「PLATEAU」をベースにしており、PLATEAU AWARD 2023への応募を目標としたキャンパス内の建物のモデリングとブラッシュアップを行いました。

これまでは、建物のモデリングを通してクオリティを上げることに主軸を置いていました。今後は、VRのキャンパスを活用して様々な企画を行っていきたいと考えています。学内の各機関や研究室などとの連携を模索していきたいと思います。

キャンパスUDプロジェクト
Campus UD Project

「通れる」だけでなく「通りたくなる」
「立ち寄りたくなる」場所づくりを考える
Thinking about creating a place not only "passable"
but also "want to pass by"
and "want to stay for a while"

■学生：10名（梶井康平, 伊藤礼佳, 高井優紀, 早川葵, 伊藤麻衣, 橘隼杜, 大久保春香, 小杉実穂, 古田倫太郎, 森慧悟）
■担当教員：藤岡泰寛, 大原一興
■連携・協力：施設部, 障がい学生支援室
■活動地域：横浜国立大学キャンパス（Sガーデン周辺）

私たちは車いすユーザーも、そうでない人も大人も子供も皆で一緒に心地よく過ごすことのできる空間づくりに取り組んでいます。昨年度に引き続き、横浜国立大のローソン前のスロープ周辺の環境改善に取り組み、「通れる場所」から「通りたくなる場所」へ、さらに「立ち寄りたくなる場所」となるデザインを考えました。
①立て看板の撤去（継続）…看板のせいでスロープ手すりが使いにくいという声があったので撤去された状態を引き続き維持されるようお願いしました。
②花壇の整備、植え付け…前年度植えた12種類の花のなかで「キャットテール」が今年も鮮やかな花をつけてくれました。横国の土や日照条件などに合っているようです。そこで、今年はキャットテールの植え付け範囲を拡大し、加えて、食べられる植物（春の七草）を植え付てエディブルガーデンの可能性も検証しました。
③ガーランドの設置…今年もクリスマス前にガーランドと小規模なイルミネーションを設置しました。
④ふらりーとプロジェクトとの連携強化… ②③の取り組みを中心に、大学院生のグループと連携を強化し、スロープ周辺だけでなくローソン前の広場も含めて一帯が楽しく思わず立ち寄りたくなる環境となるよう工夫しました。
花壇の整備、植え付けによって周辺地域の方々から、「通りやすくなった。」「きれいになった。」などのお声をいただきました。プロジェクトを通じて、「通れる」だけでなく「通りたくなる」「立ち寄りたくなる」場所づくりがUDにとってとても大事であることがわかりました。今後もより楽しい場所づくりへの発展が期待されます。

地域実践アワード

地域実践アワードは、毎年年度末に開催される「地域連携シンポジウム」の第 1 部において、地域課題実習の各プロジェクトの発表を踏まえて、シンポジウムにご参加・ご視聴頂いた皆様により投票を行い、賞を創出しているものです。

各賞は、下記のよう選出されます。

・MVP・準 MVP：総合投票サイトから投票頂いた「全体の総数」
・校友会賞：総合投票サイトから投票頂いた「学生以外」の総数
・学生賞：総合投票サイトから投票頂いた「学生」による総数
・地域賞：地域賞限定の投票サイトを通じた「総数および評価点」

シンポジウムの様子は、地域実践教育研究センターの YouTube チャンネルにおいてアーカイブ動画となっています。

チャンネル名　横浜国立大学 地域実践教育研究センター

Award

- MVP -
アグリッジプロジェクト

- 準 MVP -
サコラボ

- 校友会賞 -
転倒しない街共創ラボ

- 学生賞 -
横国 VR キャンパスプロジェクト

- 地域賞 -
岩手らばーず

Topic「おだわらデジコン城下町」コンテストにて優秀賞を受賞

モビリティ・デザインの実践：白岩元彦、宮内爽太

小田原市において、令和 5 年 11 月 3 日に「おだわらデジコン城下町（全国学生デジタルまちづくりコンテスト 2023 in ODAWARA）」最終審査会が開催されました。このコンテストは、学生の自由な発想に基づくデジタル技術を駆使したアイデアを募り、小田原市の地域課題解決や経済活性化、Well-being 向上、そしてデジタル人材の育成を目指しています。

地域課題実習「モビリティ・デザインの実践」に所属する白岩元彦さんと宮内爽太さんは、小田原城周辺の課題を移動動態データから指摘し、地域全体の魅力を来訪者に伝えるためのモビリティ向上策を提案し、優秀賞を受賞しました。

彼らは「このコンテストを通じて、地域課題実習で培ったアプローチが他の地域に対しても有効であるとの認識を得るとともに、実社会とのつながりを実感できました。」と語っています。

Topic 韓国・大邱大学との発表・交流会

韓国では、首都一局集中による地方における若者の流出をはじめ、高齢化、少子化、人口減少の課題が進行しています。韓国の内陸部にある大邱大学においても、地域と大学の連携を通じた多角的な取り組みが模索されている中で、新聞や論文等を通じて「地域実践教育研究センター」の活動を知り、大変感銘を受けた、とのことです。

特に、学生たちが「地域課題実習」という正規教育課程を通じてまちづくりプロジェクトを進め、大きな成果を上げたという内容は、韓国が参考にするべき優秀な取り組みであると実感され、「地域実践教育研究センター」および「地域課題実習」の取組みについて訪問し知りたい、とのことでした。

そこで、1 月に教職員 7 名、学生 27 名の計 34 名が来学し、双方の大学から発表を行い、とても良い交流機会となりました。

2025 年から大邱大学では周辺自治体と大学が協力して地方大学活性化事業 (政府事業「RIZE 事業」) を創出していく計画にあり、「スマートモビリティ」、「先端農生命」、「ヒューマンライフケア」の 3 分野、計 11 学科を中心に推進していくとのことです。

Topic 横浜ケーブルビジョン（YCV）との連携「ヨココク TV ～地域へ トビダセ～」

横浜ケーブルビジョン（YCV）との連携により、新番組「ヨココク TV」が立ち上がりました。3 月 16・17 日に放映される初回の番組は、副タイトルを「～地域へトビダセ～」と題し、地域課題実習でアワードを受賞したアグリッジ PJ、サコラボ PJ、転ばない街共創ラボが発表し、久保春菜さんが司会進行をつとめました。

今回の番組の企画内容は、約 1 年をかけて学生有志（清水翼さん、池田優さん、久保春菜さん）による「シンポジウム実行委員会」が、YCV のスタッフの皆さんと検討してきたものです。エンディング・ソングには南米パラグアイで活動する駒井佑作さんが制作した「TE AMO」が起用されました。

Topic 地域課題実習 20 周年を迎えます

2004 年の後期（秋学期）から開講した「地域課題実習」が、2024 年の秋におかげさまで 20 周年を迎えます。

当アニュアルレポートの 3 ページに掲載しているグラフ：「2004 年からの地域課題実習の各プロジェクトの実施（継続）年度」からもわかるように、初年度は 7 プロジェクト (PJ) から始まり、現在に至るにあたり多くのプロジェクトが各地域で活動をしてきました。

多くの方からご愛好頂いてきた地域課題実習が、今後も発展していきますよう、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

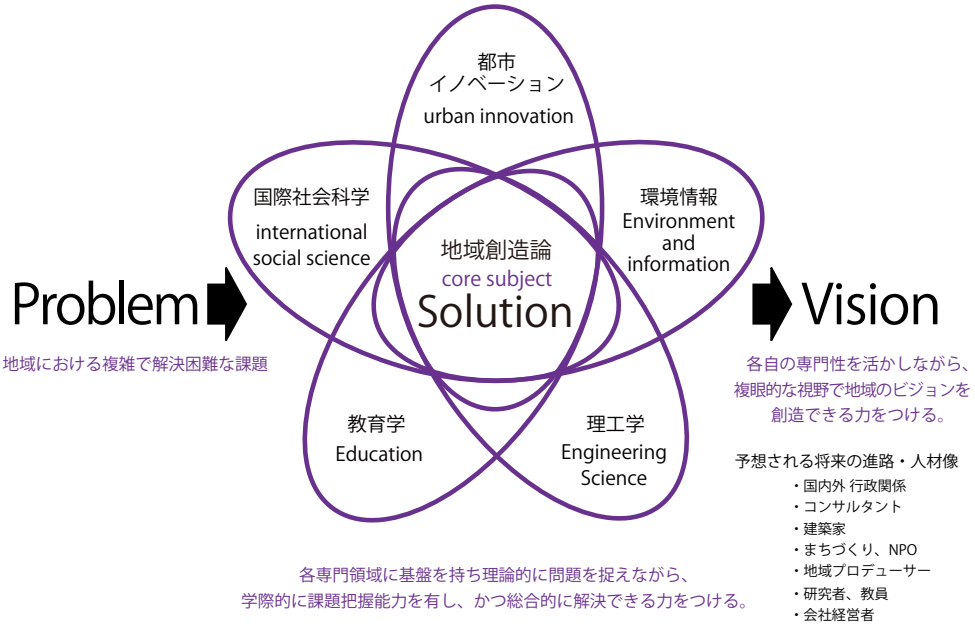
地域創造科目［大学院 副専攻プログラム］

Graduated school Sub-major program
Creative education program about local problems

■ 地域創造科目について / About this program

大学院生を対象とした副専攻プログラム「地域創造科目」は、「複雑で解決困難な地域課題を題材に、各専門分野の活かし方を発見し開拓するプログラム」です。2012 年度から開講しました。

Towards complex, intractable community issues, this program takes a theoretical approach from the individual fields of expertise, and is a sophisticated educational program which aims to produce individuals who possess the ability to appraise issues from an interdisciplinary approach and propose comprehensive solutions.



2018~2020 年度の講義録集
ブックレット：地域創造論 vol.3

「地域はどう変わるか
2010 年代から
2020 年代に向かって」

■コア科目：地域創造論 / Globalized Local Studies　テーマ：「2050 年までをシミュレーションし、創造する。」

地域創造論のテーマは 3 カ年ほど毎に設定し、これまでに「ポスト 3.11 の新しい地域像」、「ローカルからの発想が日本を変える、世界を変える。」、「地域はどう変わるか　2010 年代から 2020 年代に向かって」、「次世代の横浜・神奈川地域を素描する」としてきました。2023 年度からは、「2050 年までをシミュレーションし、創造する。」をテーマとして、2050 年を「鮮やかに創造」できるようになるよう、「客観的な分析を通じたシミュレーション力」と「学際的な視点や知識を融合した創造力」を養うことを目標として、各講義とグループワークを実施しています。前半においては各専門の観点から地域課題を学び、後半は学生が学際的なチームに分かれてグループワークを行い、新しい地域創造に向けた提案・提言を行っています。

■ 講義

ポートランドに学ぶ地球本位のこれからの都市づくり
山崎満広

「ゼロからの『資本論』」を読んで
志村真紀＋池島祥文

都市のプランニング・メソドロジー
矢吹剣一

人生 100 年時代のつながりづくり
関 ふ佐子

途上国の都市を整備する
ーインフラとローカルコモンズ
三木はる香

これからの時代に向けて考えたいこと
岡部友彦

■グループワーク / Group Works

つづきベジネットワーク　～横浜市都筑区の農と暮らしの 2050 年までをシミュレーションし、創造する。～

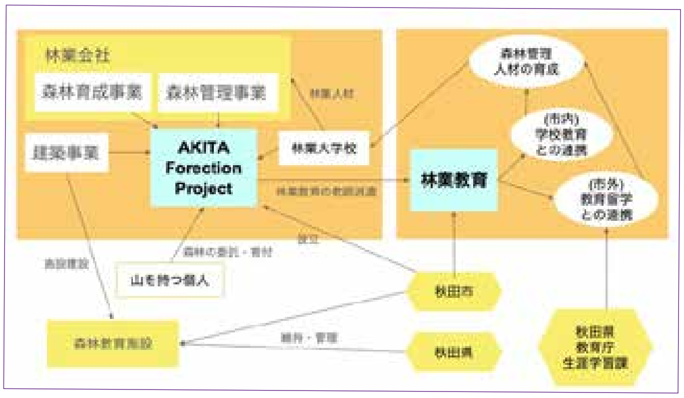
小山 萌絵・仲才 香鈴（都市イノベーション）、鈴木 海帆（環境情報）、野村 忠司（先進実践学館）

年	モデル家族構成	ライフステージに応じたニーズ	プログラム参加による期待される効果
2024年	夫36歳、妻34歳 長子3歳、次子0歳	夫婦：安心子育て	地域内の子育て コミュニティの形成
2034年	夫46歳、妻44歳 長子13歳、次子10歳	[illegible]	自然に根差した生活による ストレス改善
2040年	夫52歳、妻50歳 長子19歳、次子16歳	[illegible]	会社以外でのやりがい発見 ライフワークバランス向上
2050年	夫62歳、妻60歳 長子29歳、次子26歳	[illegible]	子育て支援・NPO参加等 農業以外の地域参加へ
2055年 （≒2066年）	夫67歳、妻65歳 長子34歳、次子31歳 初孫3歳	[illegible]	子ども世代の 子育てコミュニティの形成

　都筑区の農と暮らしにフォーカスし、子育て環境や自然の豊かさを求め、港北ニュータウンに転居した子育て家族を主人公に設定し、2050 年までのライフスタイルに寄り添ったシミュレーションを提案した。
都筑区の人口は 2050 年までは維持する一方で、高齢化率は 2050 年には 33.6% と顕著に上昇する。また、子育て環境は育児・保育施設が充実も、4 歳児以上のソフト面のサポートは不充分である。自治会加入率が横浜市内で最低となっており、近所づきあいも少なく、コミュニティが未整備である。
都筑区は⑴都心と横浜市への利便性が高く、⑵横浜随一の農地面積があり（横浜市農地の 20%）、⑶グリーンマトリックスシステムで約 90ha の自然を保全しているという特徴がある。
　以上から、都筑の農業を活かし、「つづきベジネットワーク」と題し、全世代向け年間「栽培～収穫～調理～食事＋環境教育ワークショップ」プログラムでの「人の交流」「環境教育」の提供を提案する。このプログラムにより、ママの地域内コミュニティの創出および子育ての不安を解消することが可能となる。また、定年後に地域での居場所が見出しにくいパパは、本プログラムの独自資格制度を活用することで、セカンドキャリアとして地域活動への参画が期待される。そして子どもたちは住みよい都筑に居住継続の将来図を描き出すことが可能となる。

林業のまち「秋田」を創る

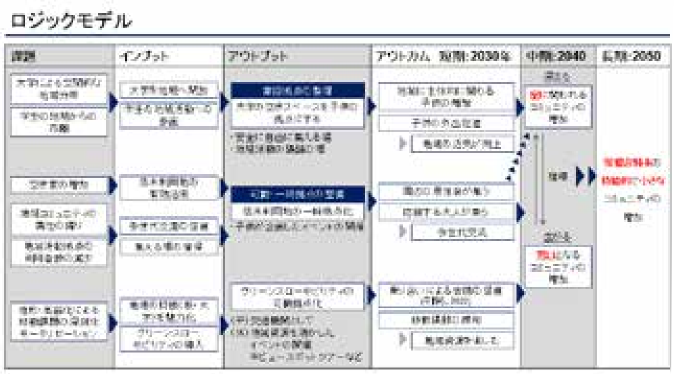
伊東 陽菜・平井 康葉・矢野 敦之・山口 大輔（都市イノベーション）、勝亦 弦揮（先進実践学館）



　我々は「秋田市を林業の街として発展させ、秋田市民のシビックプライドを醸成すること」を 2050 年の目標と定めた。秋田市の特徴として、子供の学力が日本一高いこと、林業が盛んでありながら林業人口が減少していることが挙げられる。これらを踏まえ、林業という業界の働きやすさを向上させるとともに教育に林業を取り込んで林業人口を増やすことを基本方針とした。
　前者の働きやすさについて、Akita Forection Project(以下 AFP) を提案した。AFP は秋田市が運営するプラットフォームであり、林業系企業、設計事務所、建設企業、教育機関などが参画する想定である。AFP 内では人材異動を自由化することで職種選択が容易になるほか、資材調達の円滑化により輸送コストや中抜きを避けられる。やりたい仕事に就きやすいため仕事が楽しくなり、コスト削減も実現できる。
　後者の林業教育について、まず既存の林業大学校で森林の管理を学べる制度を整えることで、林業にホワイトカラー的な面からアプローチすることができる人材を育成し、林業の多角化を狙う。また学校教育に林業を導入することで秋田市民への浸透を図る。また、教育留学に林業体験を組み込むことで県外の人への周知も狙う。
　林業を働きやすい業界とし、市民の生活に浸透させることで秋田市民が地元を林業の街として誇れるよう、上記の提案を行った。

常盤台における 小さなコミュニティの創出

小川 康太（環境情報）、清水 翼（国際社会科学）、鳥越 温生・三浦 萌夕（都市イノベーション）



　当グループでは、横浜市保土ヶ谷区常盤台地区を対象とした。常盤台地区の特徴は、丘陵部で坂道の多い地域であり、地域の中心に横浜国立大学が位置している。地域の課題としては、大学による地域の地理的分断や地域コミュニティの偏り、地形・高齢化による移動課題の深刻化が挙げられるが、地域内に大学があることは地域にとって強みとも考えられる。
　2050 年のビジョンとして、常盤台地区内における多様なコミュニティが点在する状況を目指す。1 人 1 人が居心地の良いコミュニティを持つことが、豊かな暮らしの実現に繋がると考えたからだ。そのために中心となるのはグリーンスローモビリティ（以下グリスロと省略）の導入である。グリスロの導入によって、大学構内、地域内の拠点を繋ぐことで地域内の移動を活発にさせ、多様なコミュニティの活性化を促す。併せて乗り合いによる会話の促進や坂道に対するポジティブな認知への転換が見込める。拠点としては、大学内に未来の地域の担い手である子どもの居場所を創出したり、大学周辺の低未利用地を有効活用したりすることを想定する。グリスロが拠点と拠点、人と人を繋ぐインフラとして機能すること、これらの取り組みに地域の資源の 1 つとして大学が連携することで、常盤台をより楽しい街として 2050 年を目指す。

研究 Research

-1. 学際的研究

地域実践教育研究センターは学際的研究の場として研究活動を推進してきました。これまでに「神奈川県・大学発政策提案制度」においては、2013 ～ 2014 年度に「県民総力戦による事前復興計画」、2015 ～ 2016 年度に「未来につなぐ神奈川の里山 - 里地里山の保全効果に関する学際的研究」、2019 ～ 2020 年度に「Woody ～広葉樹の活用による地域活性化と県民の健康増進～」が採択され、学際的な研究の成果を提供してきました。

なお、2017 年からは地域連携推進機構に Next Urban Lab が設置され、地域に関わる学際的研究の拠点機能は地域連携推進機構に移転しています。

-2. 地域研究

毎年度末には当センターに関わる教員の研究室・ゼミで研究した成果として梗概論文を取りまとめ、「地域研究報」として「横浜国立大学 学術情報リポジトリ」に保管しています。一般の方もウェブサイトを通じて閲覧することができます。

◆ 地域研究の各論文は、下記サイトおよび右記の QR コード先からご覧いただけます。

横浜国立大学 学術情報レポジトリ＞ 10 全学教育研究施設等＞ 10-4 紀要＞

10-4-61 横浜国立大学地域実践教育研究センター地域課題実習・地域研究報

No.	論文タイトル名	執筆者, 担当教員名
1	山下ふ頭再開発に関わる経済効果の研究	後藤駿太, 内藤彩月, 石井宏樹, 灘尾薫, 伊藤優太郎, 中村直也, 居城琢
2	東海オンエアの聖地巡礼による愛知県岡崎市への経済波及効果と聖地巡礼者の消費行動分析	足立佳穂, 居城琢
3	産業連関表を用いた桐生市織物産業の和装離れの影響分析	後藤駿太, 居城琢
4	ファジアーノ岡山の夢チケがもたらす影響分析	齋藤直弥, 居城琢
5	障害者の就労が持つ経済波及効果	松原愛結, 居城琢
6	読売ジャイアンツ球場で行われるプロ野球２軍公式戦が川崎市に与える経済波及効果	村山龍平, 居城琢
7	横浜国立大学に通う留学生が地域に与える影響に関する研究報告	内藤彩月, 居城琢
8	江ノ電沿線地域における市民等優先入場がもたらす経済波及効果	山田知佳, 居城琢
9	海外アーティストが日本で行うライブの経済波及効果とSNS宣伝効果	小島美果, 居城琢
10	テレビ番組の放送効果について	児島熙, 前田将希, 居城琢
11	地域版スポーツGDPGDP（GRPGRP）の算出及び地域間比較～横浜市を事例に～	伊藤優太朗, 居城琢
12	淡路島産業連関表、淡路島本社部門産業連関表の作成と分析	姥谷航生, 居城琢
13	子どものフリースクールのニーズ―現代社会において子どもに必要とされている学びの場とは―	米山朋花, 居城琢
14	横浜ぴあアリーナmmで行われた東海オンエアのイベントによる岡崎市への経済波及効果	大久保友稀, 居城琢
15	神奈川県地域活性化モデルの作成及び考察	土井瑠衣香, 居城琢
16	広島空港移転による経済波及効果の変化	灘尾薫, 居城琢
17	宮市亮選手の経済波及効果	枝村磨生南, 居城琢
18	日本語ラップの変遷及びそれに伴う経済効果	伊藤啓祐, 居城琢
19	新型コロナウイルスで発展したオンラインライブの今後の展望	衛藤実有, 居城琢
20	アフターコロナにおける、埼玉西武ライオンズホームゲームの来場者が所沢市に与える経済的影響	寺本幹大, 居城琢
21	中高生の座席選択からみた居場所としての図書館に関する研究	小林芽依, 大原一興, 藤岡泰寛
22	新駅が開業した地域における地域活動の変化に関する研究　神奈川県内に開業した新駅を対象として	小泉勇真, 大原一興, 藤岡泰寛
23	小規模多機能型居宅介護サテライト施設の現状と課題　―運営者から見た施設の実態―	梶木康平, 大原一興, 藤岡泰寛
24	学生が参加する地域活動を通じた高齢住民の主体性形成に関する研究　―常盤台羽沢地区におけるまちづくりを例に―	伊藤礼佳, 大原一興, 藤岡泰寛

25	バリアフリー基本構想における学校の位置づけに関する研究　― 東京都と神奈川県の自治体を対象として―	有岡優佑, 大原一興, 藤岡泰寛
26	居住実態からみたシェアハウス型学生寮の建築計画に関する研究　― 横浜国立大学学生寮・常盤台インターナショナルレジデンスを事例として ―	鍋平和輝, 大原一興, 藤岡泰寛
27	遊べるイスにみる地域の交流拠点のあり方　―製作過程から利用における多世代交流の形―	望月那菜美, 大原一興, 藤岡泰寛
28	銭湯の都市拡張期の立地傾向と現存要因の分析　ー横浜市内の銭湯を対象としてー	脇田脇之介, 大原一興, 藤岡泰寛
29	多様なジェンダーに配慮したこれからのキャンパストイレに関する研究	羽田光梨, 大原一興, 藤岡泰寛
30	中山間地域の中心市街地における空き家・空き店舗の福祉活用に関する研究　― 神奈川県Y町を事例として―	長谷川 明香, 大原一興, 藤岡泰寛
31	中山間地における空き家の発生に関する研究　―山北駅前商店街の空き店舗を活用した定住・移住促進及び地域共生社会づくりの取り組みを通じて	川島多聞, 大原一興, 藤岡泰寛
32	大学のユニバーサルデザイン整備のあり方に関する研究　―横浜国立大学常盤台キャンパス屋外エレベーター設置後の状況のあり方からー	川崎浩輝, 大原一興, 藤岡泰寛
33	高齢化の進む公営住宅団地における学生入居事業への期待 に関する研究	卯川遍, 大原一興, 藤岡泰寛
34	大学高等専門学校などの教育機関におけるデジタルファブリケーション設備の活用について	平田雄基, 大原一興, 藤岡泰寛
35	まちづくり会社の担う事業の変化に関する研究―熱海の公民連携事業を対象としてー	佐藤美那子, 江口亨
36	移住者の不安要素の解消手法に関する研究-埼玉県小川町における移住者の受け入れ体制に着目して-	早川葵,　江口亨
37	高経年団地居住の高齢者を中心とした夏季の就寝環境の実態調査	髙山友美恵, 田中稲子, 清野友規
38	人工衛星CE-SAT-IIBの夜間光データを用いた東京都心部における光害の評価	二宮輝, 清野友規, 田中稲子
39	港北ニュータウンにおける斜面緑地の冷気移流の実態とその活用に関する研究	YANG ZIZHEN, 稲垣景子, 吉田聡
40	まちづくり協定地区における壁面色彩による景観印象に関する研究 ー荏田北2丁目地区を対象として	谷川一, 吉田聡, 稲垣景子
41	自然災害リスクが地価に与える影響分析　ー相模湾沿岸市町を対象としてー	津守真帆 稲垣景子, 吉田聡
42	時刻別人口特性をふまえた津波避難困難地域分析　ー神奈川県鎌倉市におけるケーススタディー	山田菜月, 稲垣景子, 吉田聡
43	地震時の避難所避難者数の推計と空間分布特性分析　ー横浜市を対象地としてー	鄭智允, 稲垣景子, 吉田聡
44	健康増進を目的としたみちづくりが歩行者の歩行意欲に与える影響についての研究　ー横浜市健康みちづくり推進事業 神奈川区ルートを対象としてー	髙橋慧,高見沢実,野原卓,矢吹剣一,尹莊植
45	市民緑地制度における維持管理主体の拡充に関する研究　-練馬区憩いの森における区民管理に着目して-	高井優紀,高見沢実,野原卓,矢吹剣一,尹莊植
46	行政・住民による斜面市街地の道路空間におけるカスタマイズの実態に関する研究　―呉市両城地区を対象として―	年盛文也,高見沢実,野原卓,矢吹剣一,尹莊植
47	住宅地に立地する非住宅用途の実態に関する研究　― 鎌倉市佐助地域を対象として ―	松本望実,高見沢実,野原卓,矢吹剣一,尹莊植
48	複数のまちの居場所が展開する過程とその要因の研究　-武蔵新城を事例として-	森田彩日,高見沢実,野原卓,矢吹剣一,尹莊植
49	都市空間における協働型パフォーマンス活動の実態と今後の可能性に関する研究　ー横浜市内の活動団体に着目してー	佐々木健斗, 野原卓, 高見沢実, 矢吹剣一
50	みちあそびのしやすい社会の実現に向けた制度に関する研究　- イギリス ブリストル市のTPSO制度を対象として -	森 慧悟, 高見沢実, 野原卓 ,矢吹剣一
51	横浜市創造界隈拠点による市民の文化芸術活動促進に関する研究	的羽佑菜, 野原卓, 高見沢実, 矢吹剣一
52	オンラインコミュニティを端緒とした関係人口による地域おこしについての研究　-Nishikigoi NFTプロジェクトを対象として-	河村凌平 ,高見沢実, 野原卓, 矢吹剣一
53	行政と住民の連携による生活街路空間の管理手法とそのプロセスに関する研究 ―フォレステージ高幡鹿島台を対象として	川田 真史, 野原卓, 高見沢実, 矢吹剣一

地域連携推進機構　Organization for Local Collaboration Networking

地域連携推進機構について

地域連携推進機構は、地域連携活動および地域課題解決への先導的役割等を果たすとともに、地域社会と連携する中核拠点となるため、2017 年 4 月に設置されました。 地域に信頼され、地域に支えられ、地域の発展を支援するという、横浜国立大学の地域戦略における 3 つの精神を軸に、本学の研究力や教育力を地域問題解決へ還元し、大学として積極的に地域連携活動を推進していきます。

地域実践教育研究センターは 2019 年度から、成長戦略教育研究センターは 2020 年度から機構内センターとして位置付けられました。

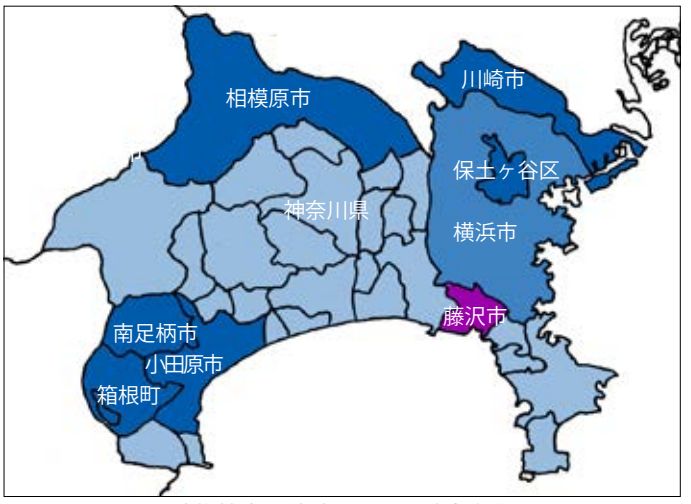
地域連携推進機構
Organization for
Local Collaboration Networking

- **地域実践教育研究センター**
  Global-Local
  Education and Research Center
- **成長戦略教育研究センター**
  Education and Research Center
  for Economic Growth Strategy

地方自治体との連携協定

本学では、各地方自治体や事業者等と連携協定を結ぶことによって、より充実した教育活動や研究成果を創出・提供しています。

＊藤沢市とは地域創生・地域活性化に関する連携協定を締結しています。



連携協定を締結している地方自治体

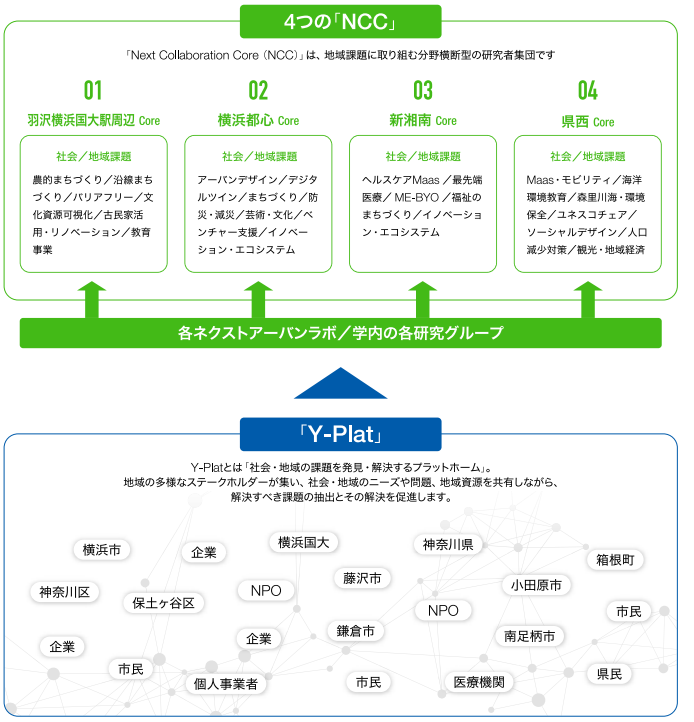
社会・地域課題の解決に取組む Y-Plat ＆ NCC

地域連携推進機構では、本学教員が地域と関わった研究活動を推進するとともに、その成果を可視化する「ネクストアーバンラボ」の仕組みをつくってきました。

2022 年度からは、本学が有する多様な学術知・実践知を駆使した「社会・地域課題を発見・解決するプラットフォーム (Y-Plat)」を構築しようと取り組んできます。

このプラットフォームでは、多様なステークホルダー（自治体、産業界、学校、市民等）と連携して、様々な社会･地域課題を発見し、本学教員による分野横断型のチームが中心となり、課題解決策を検討しています。

その取り組みの中で「ネクストアーバンラボ」を発展させた「ネクストコラボレーション拠点 (NCC)」を形成し、社会・地域課題の解決にさらに貢献できるように取り組んでいます。また、地域にサテライトキャンパスを設置し、これらの取り組みを支えていきます。



※ 詳しくは地域連携推進機構の Web サイトをご覧ください。　検索：　地域連携推進機構

関連教員

The Relationship Professors

■ 機構長

田中稲子
Ineko TANAKA
副学長 (地域担当), 地域連携推進機構長 , 都市イノベーション研究院 , 都市科学部・教授 / 建築環境工学，住環境

■ センター長

氏川恵次
Keiji UJIKAWA
地域実践教育研究センター・センター長 / 国際社会科学研究院 , 先進実践学環 , 経済学部・教授 / 経済統計・経済モデリング、環境経済学

志村真紀
Maki SHIMURA
地域連携推進機構・准教授 / 地域・都市デザイン , 建築意匠，まちづくり , デザイン学

■ 客員教授

秋元康幸
Yasuyuki AKIMOTO
地域連携推進機構・客員教授 / 都市政策 , 都市デザイン

■ 客員教授

山﨑満広
Mitsuhiro YAMAZAKI
地域連携推進機構・客員教授 / 都市デザイン , 地域経済開発 , 新規事業開発

池島祥文
Yoshifumi IKEJIMA
学長補佐 (地域担当), 国際社会科学研究院 , 先進実践学環 , 経済学部・教授 / 農業経済学，地域経済学

倉田薫子
Kaoruko KURATA
環境情報研究院 , 先進実践学環 , 教育学部・准教授 / 生物多様性保全，植物地理学

小林誉明
Takaaki KOBAYASHI
国際社会科学研究院（法学），先進実践学環・准教授 / 政治経済学 , 国際協力論 , 開発政策研究 , ODA 政策研究

居城琢
Taku ISHIRO
国際社会科学研究院 , 先進実践学環 , 経済学部・准教授 / 地域経済論 , 産業連関論 , 中小企業論 , 環境経済論

倉田久
Hisashi KURATA
国際社会科学研究院 , 先進実践学環 , 経営学部・教授 / 経営工学 , 経営情報論 , サービス経営

松行美帆子
Mihoko MATSUYUKI
都市イノベーション研究院 , 都市科学部・教授 / 都市計画 , 開発途上国都市論

佐藤峰
Mine SATO
都市イノベーション研究院 , 先進実践学環 , 都市科学部 , 准教授 / 国際開発学 , 社会人類学 , コミュニティ・デザイン

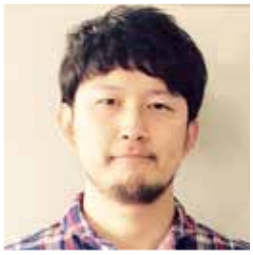
野原卓
Taku NOHARA
都市イノベーション研究院 , 先進実践学環 ，都市科学部・准教授 / 都市計画 ，都市デザイン

矢吹剣一
Kenichi YABUKI
都市イノベーション研究院 , 先進実践学環 , 都市科学部・准教授 / 都市計画 , 都市デザイン , まちづくり

尹莊植
YOON Jangshik
都市イノベーション研究院 , 都市科学部・准教授 / 都市計画 , まちづくり

本藤祐樹
Hiroki HONDO
環境情報研究院 , 理工学部・教授 / 技術評価論 , エネルギー環境システム分析 , ライフサイクルアセスメント , エネルギー心理学

小林剛
Takeshi KOBAYASHI
環境情報研究院 , 先進実践学環 , 都市科学部・准教授 / 環境安全化学 , 化学物質管理 , 都市環境汚染



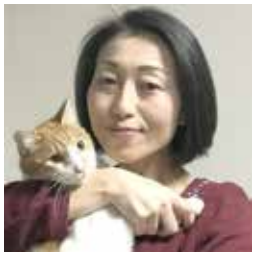
遠藤聡
Akira ENDO
環境情報研究院 , 先進実践学環 , 都市科学部・准教授 / 都市・地域経済学

中村一穂
Kazuho NAKAMURA
工学研究院 , 理工学部・准教授 / 化学工学 , 水環境工学 , バイオプロセス

内海宏
Hiroshi UTSUMI
非常勤講師 (地域連携と都市再生 A) / 地域・地区計画 , 市民協働論 , 地域・市民まちづくり論

為近恵美
Emi TAMECHIKA
地域連携推進機構・教授 / 応用物理 , ナノテクノロジー , アントレプレナー教育 , イノベーション人材育成

湯沢雅人
Masato YUZAWA
地域連携推進機構・非常勤教員 / マーケティング論、製品開発論、イノベーション創出



安野舞子
Maiko YASUNO
教育推進機構・准教授 / 高等教育 , リーダーシップ教育 , 人と動物の関係学

原口健一
Keinchi HARAGUCHI
教育学部・教授 / 木工・木彫

山崎圭一
Keiichi YAMAZAKI
国際社会科学研究院 , 経済学部・教授 / 途上国経済 , ブラジル研究 , 都市住宅政策 , 住宅金融

伊集守直
Morinao IJU
経済学部長
国際社会科学研究院 , 先進実践学環 , 経済学部・教授 / 財政学 , 地方財政論

大野敏
Satoshi ONO
都市イノベーション研究院 , 都市科学部・教授 / 日本建築史 , 建築技術史 , 伝統的民家の保存修復

藤掛洋子
Yoko FUJIKAKE
都市科学部長
都市イノベーション研究院 , 都市科学部 , 先進実践学環・教授 / 文化人類学 , 開発人類学 , ジェンダーと開発 , パラグアイ地域研究

吉田聡
Satoshi YOSHIDA
都市イノベーション研究院 , 都市科学部・准教授 / 建築環境・設備

藤岡泰寛
Yasuhiro FUJIOKA
都市イノベーション研究院 , 先進実践学環 , 都市科学部・准教授 / 建築計画 , 都市計画

*2024 年度に予定している関連教員として、
地域実践教育研究センターに関わる教員および運営委員（兼任教員）をはじめ、
地域交流科目 コア科目の担当教員、地域課題実習の主担当教員を掲載しています。

寺田真理子
Marikoi TERADA
都市イノベーション研究院，
都市科学部・准教授 /
建築と都市のメディア・デザイン，
キュレーション，コモニング

藤原徹平
Teppei FUJIWARA
都市イノベーション研究院，
都市科学部・准教授 /
建築設計，建築意匠

稲垣景子
Keiko INAGAKI
都市イノベーション研究院，
都市科学部・准教授 /
都市・地域防災，空間解析

江口亨
Toru EGUCHI
都市イノベーション研究院，
都市科学部・准教授 /
建築構法計画，建築生産

三浦倫平
Rinpei MIURA
都市イノベーション研究院，
都市科学部・准教授 /
都市社会学，地域社会学

小松怜史
Satoshi KOMATSU
都市イノベーション研究院，
都市科学部・准教授 /
都市防災、インフラ長寿命化，
コンクリート工学

小池文人
Fumito KOIKE
環境情報研究院，先進実践学
環，都市科学部・教授 /
生態・環境，生物資源保全学

島圭介
Keisuke SHIMA
環境情報研究院，先進実践学
環，理工学部・准教授 /
生体医工学，リハビリテーショ
ン科学，知能ロボティクス

下野誠通
Tomoyuki SHIMONO
学長補佐（研究・医工連携）
総合学術高等研究院・次世代
ヘルステクノロジー研究セン
ター長 / 工学研究院・准教授 /
モーションコントロール，医療
ロボット，アクチュエータ

地域実践教育研究センターからの出版物

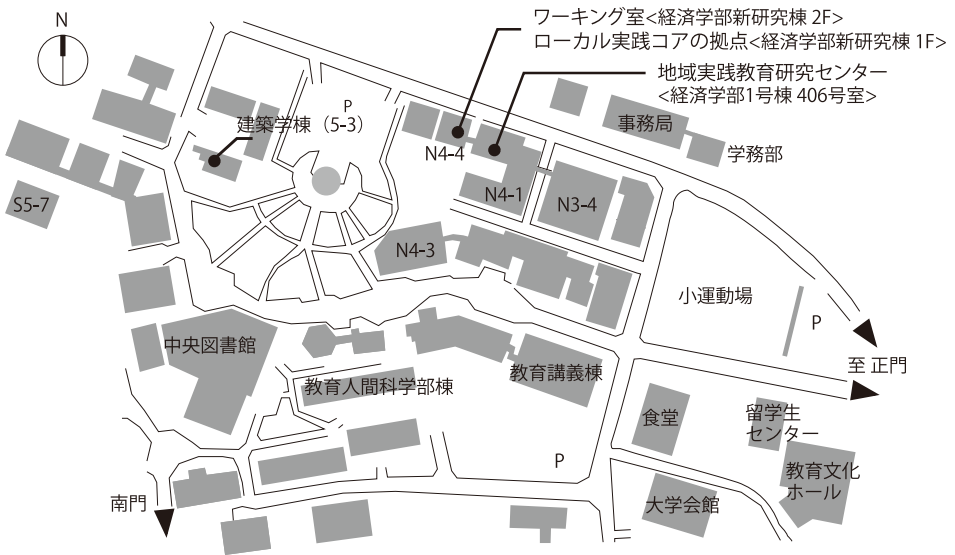
みんなのまちづくりゲーム in cities
MINMACHI in cities

2022年3月発行

横浜国立大学 地域連携推進機構
地域実践教育研究センター　+
南三陸研修センター　編
（池島祥文+伊集守直+志村真紀+浅野拓也）

地域交流科目のコア科目「地域連携と都市再生B（かながわ地域学）」において、参加型授業の教材として用いられてきた「みんなのまちづくり in cities」が販売されました。このゲームでは、チームで地域の経済や行財政の仕組みを学びながら、自分たちが住みたいと思える、まち・地域を実現するためには、どのようなアクション・政策が効果的なのかシミュレートすることができます。

＊南三陸研修センターが運営するウェブサイトから購入できます。 https://ms-minmachi.com



■ 問合せ・連絡先

横浜国立大学
地域連携推進機構
地域実践教育研究センター
〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3
横浜国立大学　経済学部1号館 406号室
TEL&FAX : 045-339-3579
E-mail : chiki-ct@ynu.ac.jp
URL：http://chiki-ct.info